



2002年度
ユネスコ小渕恵三研究奨学金
給費研究員研究業績

UNESCO/Keizo Obuchi Research Fellowships
Programme in 2002: Results Achieved

教育の原点は、「生きる力」、「助け合う心」
そして「自然を慈しむ気持ち」にあると信じます。

小渕恵三 内閣総理大臣
平成十一年一月十九日
第百四十五回国会施政方針演説より



松浦晃一郎ユネスコ事務局長と小淵恵三総理大臣
2000年撮影

序 文

小渕恵三元首相は、平和の建設者でした。彼は、人々の聡知を結集することにより、平和の世紀を建設できると堅く信じていました。

私は、小渕恵三氏を中学時代から知ると言う特権を得ました。早稲田大学卒業後、自分自身で世界を見ることにより世界について、より多くを学ぶことができると、如何に語っていたかを思い出します。それで、彼は1963年に九ヶ月間にわたり、世界中で仕事を見つけながら38ヶ国を旅しました。この旅を通して、全方面との意思の疎通を行い、人々を結集すると言う重要な教訓を彼は深く学びました。

未来は人々の手の中にあると確信した彼は、その後、衆議院議員選挙に立候補することを決意しました。そして、26歳で当選した彼は、日本史上、最年少の国会議員となりました。そして、36年間にわたり、彼は国政において、清廉、誠実、謙虚な人として知られる働きをしました。

私は、彼の効果的政治手腕と個人としての温かさに何時も感銘を受けました。彼は、理想に燃えた、力強い、精力的な指導者でした。

総理大臣として、小渕恵三氏は素朴、且つ、人間的に世界中の人々の心に触れました。彼は、優しさのこもった声で語る、カリスマ性を持った指導者でした。

彼は、国際舞台では開発問題、平和的紛争解決、そして、情報通信技術への全面的取組により知られました。小渕恵三氏は、成功するために国々は、特に将来の守護者である若い世代に投資することにより人材開発を行う必要があると堅く信じていま

した。この信念を共有し、私は彼を記念し、ユネスコ小渕恵三研究奨学金プログラムを設立いたしました。日本政府の多大な支援により、私達は発展途上国と移行期にある国々から給費に価する20名の候補者に2001年以来、奨学金を毎年支給する事ができました。

一人の人間としては、小渕恵三氏は、配慮の人であり、謙遜の人、謙虚な人であると同時に、優しい、愛される夫であり父でありました。

2004年4月にユネスコ本部において、ユネスコ小渕恵三研究奨学金プログラム実施三周年にあたり、私は故小渕総理の未亡人である小渕千鶴子夫人、息女の小渕暁子嬢臨席のもとに記念式典を開催する栄誉を得ました。この記念式典において、小渕夫人が、「ユネスコ小渕恵三研究奨学金プログラム」により、亡き夫の精神を尊重し、活かす努力に対して感謝の念を表明され、このプログラムが世界中の若い世代の人材育成に貢献することを希望されました。

この小冊子は、現在、及び、将来のために平和な世界を建設するのを助ける小渕恵三氏の努力の継続を象徴する2002年度研究奨学金給費研究員20名の成果の概略を提供しています。

ちょうど沖縄にある小渕恵三氏の像が彼に似て、その顔に優しさを浮かべ、人々に語りかけ、その手を外に向かって差し伸べている様に、この小冊子は私達に人々への彼の無条件の愛と彼の平和と開発への取組が、この研究奨学金をとおして生き続けている事を思い出させます。私達は、この小冊子を偉大な友にして、平和の建設者、そして、非凡なる人への懐かしい思い出と賞賛をもって小渕家に捧げます。

2005年2月28日
ユネスコ事務局長
松浦晃一郎





小渕恵三首相

小渕恵三氏と ユネスコ小渕恵三研究奨学金について

小渕恵三元総理大臣は、1937(昭和12)年6月25日に群馬県中之条町に生まれ、惜しくも2000(平成12)年5月14日に62歳で逝去されました。

政治家の子である小渕氏は自分も政治家になることを決意し、国会議員となり、優しさのこもった声で語る、カリスマ性を持った、謙虚で誠実な人として知られるようになりました。

彼は模範的な国会議員、閣僚との評価を築き、また、特に秀でた交渉能力を発揮しました。

三十年以上国会議員を務め、1997年から総理大臣に選出される1998年7月にかけては、外務大臣を務めました。

小渕氏は、国際舞台においても、開発問題に対する取り組みと、日本を、社会経済開発の更なる進展を目指す国際社会の努力の強化に取り組む国々の最前線に置こうという決意により知られるようになりました。

日本国政府は、発展途上国における人材育成の強化をユネスコと協力して実行しています。具体的には、日本国政府の信託基金とユネスコが共同して、2001年から毎年20名の研究員に研究費を提供する研究奨学金プログラムという形をとり、故小渕恵三氏を記念して行われています。

小渕恵三元総理大臣の精神、そして、未来は若者によって産み出されるという彼の信念を生かし、尊重するという観点から、この奨学金は発展途上国、特に低開発国からの、下記の分野における研究を熱望し、給費に値する応募者に授与されています。

この奨学金の目的は、小渕恵三元総理大臣が献身的な働きをされた開発分野であり、且つ、ユネスコが特に関心を持つ分野における革新的で創意に満ちた修士課程以降の研究の支援にあります。その分野とは以下の四分野です。

環 境

異文化間対話

情報通信技術

平和的紛争解決

応募資格

応募者は、以下の基準を満たさなければならない。

選考に付される候補者は、ユネスコに加盟する各当該発展途上国の国内委員会の推薦がなければならない（個々人による応募は受理されない）。

応募者は、自国外で上記特定四分野の一つにおいて知識を深める研究を行うことを希望する修士号を既に取得している研究者であること。

応募者は40歳以下であること。

応募者は帰国後、自国に顕著な貢献をなすことを期待できる、高度な知性を有する有望な者であること。

給費研究員は、自国外で受け入れ先研究機関の学術指導者の下で研究を行うこと。

給費研究員の選定方法

選考委員会は上記四分野における専門家から成り、ユネスコ事務局長による最終決定に付すべく推薦を行う。給費研究員の選定は、各応募者の能力およびユネスコ小渕恵三研究奨学金の支給目的に基づき行われる。

支給額

2001年度、2002年度、2003年度、そして、2004年度の間、国外での研究費用を賄うため、給費研究者一人当たり7500米ドルが支給された。

この研究奨学金プログラムの成功により、日本国当局は研究奨学金最高支給額を増額する事を決定している。この最高支給額（六千から一万米ドル）は、研究期間と研究地により決定される。最高支給額は、一万米ドルを越えない。

ユネスコ小渕恵三研究奨学金 プログラムの所期成果

今日までにユネスコ小渕恵三研究奨学金は以下の貢献を行っています。

- ユネスコの人材育成活動の強化
- 開発技術水準に関する知識の向上
- 発展途上国間の知識の伝達および共有、情報交換および技術協力の促進
- 当機関の管轄する数々の分野における革新、研究および情報の支援
- 連携と交流の強化増進
- 国外で修得した知識を出身国へ持ち帰ることにより得られる「乗数効果」の確保
- 受益国と受入国間の友情と国際理解および平和の育成

この小冊子について

この小冊子の目的は、2002年度の給費研究員20名の行った研究の概略を紹介することにあります。

この小冊子には、各研究員が
誰か、
何を研究し、
何を達成したか
が記されています。

来るべき新しい時代が、
私たちや私たちの子孫にとって
明るく希望に満ちた
世の中であるために、
「鬼手仏心」を信条とし…
叡智を結集して
次の時代を
築く決意であります。

小淵恵三内閣総理大臣

平成十年八月七日

第百四十三回国会所信表明演説より



世界でも最も地雷被害者の多い国の一つ、
カンボジアで地雷探知機を試す小渕首相
平成12年1月11日撮影

「・・・対人地雷全面禁止条約の締結に当たっては、・・・外務大臣として・・・
敢然と署名をされ・・・このことは、平和を何よりも愛し、人類愛に燃えた
政治家小渕恵三君の特筆すべき決断でありました。」村山富市元首相



左から、小淵暁子嬢、小淵千鶴子夫人、松浦晃一郎ユネスコ事務局長
2004年4月23日パリにて

小渕恵三元首相記念式典

平成十六年四月二十三日
に
ユネスコ本部において、
ユネスコ小渕恵三研究奨学金
プログラム実施三周年に際し、
松浦晃一郎ユネスコ事務局長が
故小渕恵三元首相に感謝し、
記念式典が開催されました。

この式典は、松浦貴子ユネスコ事務局長夫人、小淵千鶴子元総理夫人、及び、小淵暁子嬢の臨席の元に行われました。



左から、小淵暁子嬢、小淵千鶴子夫人、松浦晃一郎氏、松浦貴子夫人

今日までに、日本政府からの信託基金の形によるユネスコへの寄与は、791,680米ドルに昇り、ユネスコ小淵恵三研究奨学金プログラムの二期（2001-2002年度と2003-2004年度）を賄い、ユネスコが2001年から2003年の期間中に43カ国の60名に研究奨学金を給費することを可能にしています。2004年の20名の給費研究生が、選考委員会により選出され、松浦事務局長により承認され、研究を開始しています。



式典の中で、松浦事務局長は次の様に語りました。

小渕恵三元首相は、どの国においても成功の鍵は、その国の人材の育成にあり、未来は若者によって生み出されるので、特に若い世代に資源を投資し、強化する事だと堅く信じておられました。私は、この信念を共有し、彼に敬意を表してユネスコ小渕恵三研究奨学金プログラムを設立いたしました。

日本国政府の多大な支援により、2001年以来、給費に価する開発途上国、及び、移行期にある諸国の候補者20名に研究奨学金を毎年支給することが可能となっております。



左から松浦夫人、松浦事務局長、サラ研究員、小淵夫人



左から松浦夫人、松浦事務局長、イワノフ研究員、小淵夫人、小淵嬢

2004年4月にドイツで研究中の2003年度プログラム給費研究員の二名、スーダンのイグバル・サラ・マホメッド・アリ研究員とキルギス共和国のミハイル・V・イワノフ研究員が、記念式典に招かれ、ユネスコ小淵恵三研究奨学金プログラムへの感謝の念を表明しました。

イグバル サラ モ ハ メ ッ ド アリ

Igbal Salah Mohammed Ali 研究員

誕生日：1970年10月3日

出生地：スーダンのオムダーバン

最終取得学位：

アイルランドのガルウェイ所在のアイルランド国立大学で水文学により科学修士号を取得。

学術業績：

1998年アイルランドのガルウェイ所在のアイルランド国立大学修士論文 *Application and Modification of the Probability Distributed Soil Moisture Storage Capacity Model (PDM) (確率分散土壌保水容量モデルの応用と修正)*

研究分野：環 境

研究内容：*The Application of Remote Sensing Techniques and Numerical Models to the Blue Nile Basin Management* (青ナイル川流域管理への遠隔探知技術と数値モデルの応用)

研究期間：2003年11月から2004年5月

ミハイル イワノフ

Mikhail V. Ivanov 研究員

誕生日：1980年6月17日

出生地：キルギス共和国

最終取得学位：

キルギス-ロシア スラブ大学国際関係学部で国際関係専攻により(優等)学位取得

学術業績：

2002年ビシュケク刊「キルギスタン：独立の十年-政治分析」13頁から15頁収録論文 キルギスタン共和国の独立十年
2002年ビシュケク刊「現代選挙人の心理」21頁から23頁収録論文 心理学のプリズムを通して見た政治

研究分野：平和的紛争解決

研究内容：*The Problem of New Security: Challenges and Possibility of Conflict Resolution and Prevention in the Central Asia region* (新たな安全保障の問題：中央アジア地域における紛争解決及び防止への挑戦と可能性)

研究期間：2003年11月から2004年5月

イグバル サラ モ ハ メ ッ ド ア リ

Igbal Salah Mohammed Ali 研究員による礼辞

ユネスコは、その支援の下に行われる様々なプログラムを通して開発途上国において主要な役割を担っていることが良く知られています。

そのユネスコの、生涯において様々な政治分野で顕著な貢献をされた小淵恵三元総理を記念する、この特別な行事に参加できることに私は非常な喜びを感じています。

そして、「青ナイル川流域管理への遠隔探知技術と数値モデルの応用」についての研究を行う事を可能にしたユネスコ小淵恵三研究奨学金に対して、私が恩に感じていることをこの場で表明したいと思います。

今日では、水が重要な部門の一つである様にみえ、世界中の専門家の注意を引き付けています。

淡水資源が限られている事は事実で、この事実は望ましい持続可能な開発を確実にするために既存の水資源の良好且つ有効な管理運営の重要性に直接繋がります。

従って、この研究は、私の国の主要な水資源の一つ、ナイル川の最も変化に富む支流、青ナイルを取り扱っています。青ナイル流域の管理運営には、川の流水の高い季節変動性、大量の堆積物、そして、既存貯水量の減少の問題が含まれます。青ナイルとアトバラ川は、エチオピア高原を水源とし、ナイル氾濫の主な源となっています。

エチオピア高原の降雨の適時情報、信頼できる監視予想システムの欠如が、スーダンを破壊的洪水に対して脆弱にしています。

大規模な洪水が発生した時には損失は避けられませんが、当局と個々人に前もって洪水と採るべき行動について知らせる十分なリードタイム、或いは、警告時間があれば、損失を減らすことができます。リードタイムは、METEOSAT気象衛星の有する熱赤外線チャンネルを使用するTAMSAT CCD/降雨推定法により得られた推定降雨を使用し、青ナイル流域（176000平方キロメートル）上の降雨を考慮する事により、伸ばす事が可能です。

この研究では、青ナイル流域における水の動きをシミュレートするために降雨流出モデルのTOPMODEL(1979年Beven, Kirby)を選びました。TOPMODELは、単純な地形情報、及び、飽和超過と浸透超過の双方の流出を含む流出メカニズムに基づく可変流出寄与域を表す用途の広い水文学的モデルです。このTOPMODELの異なる2つのアプローチを伝達関数モデルと同じくテストしました。

この研究の結果は、青ナイル側の洪水の予測を行い、対処するためにスーダン当局が使用している早期洪水警報システムを強化するものと期待されます。

このシステムを発展させる事は、スーダンにおいて洪水が引き起こす災害の防止に寄与する事になります。

従って、帰国後、この研究から私が得た知識を総ての将来の仕事に伝えて行く所存です。

ミハエル イワノフ

Mikhail V. Ivanov 研究員による礼辞

私は、この小渕恵三元総理を記念する特別な行事に参加し、この研究奨学金プログラムを可能として下さっている皆様方に私の感謝の念を個人的に表明できる事を大変嬉しく思います。

世界中の若い科学者達が、小渕恵三元総理が明らかにした開発の最も重要な分野へ自分たち自身の貢献を行う素晴らしい機会を与える、このプログラムに感謝いたします。鋭敏な交渉者、合意形成者としての名望を有した小渕恵三氏の名を冠した、この研究奨学金は、その給費を受ける研究員に不偏的研究を行い、必要な経験を積む特別な責任を科します。

私の研究は、中央アジアにおける新独立国家の創立を考慮し、ここ十年間に現れ、この地位の安定と安全保障に更なる脅威を創り出した新たな国際安全保障の諸問題への潜在的な地域紛争の依存性の考察を試みています。

まず最初に、国際テロリズムと過激主義の問題があります。この問題は、今一度、この脅威に国境がない事を示した最近のマドリッドにおける悲劇的出来事により顕かな様に、世界中で等しく激烈なものです。この問題は、今年の3月29日にテロリストが中央アジア地域の一国、ウズベキスタンで犯行を犯し、同地域の安定にとり、最も危険である事も証明されました。国際テロリズムの脅威は、中央アジア地域における国家間関係を悪化させ、領土、民族、そして、資源紛争といった他の国家間の問題も復活させています。

これが、中央アジア地域の状況は一国の努力と一方的な方法によっては改善できない事を示す事が、何故それ程重要かと言う理由です。中央アジア諸国は、共通の脅威への対抗処置、及び、紛争解決の地域多重トラック戦略システムの設立を通してのみ、安定した発展に必要な条件を得ることができるのです。この点において、中央アジア地域は、こうしたシステムを設立し、全中央アジア諸国と近隣諸国における持続可能な開発を提供するために諸国際機関の援助を必要としています。

この地域のキルギスタンも他の国々も、この問題を研究する必要があります。

私は、この研究を行う機会を与えてくださった方々に再度感謝いたします。何故なら、この機会が、私、及び、他の研究員に非常に重要な研究活動における経験を与えてくれるからです。将来、私は、この分野における研究を積極的に継続してゆくつもりです。

私は、ユネスコ小渕恵三研究奨学金プログラムのおかげで行われたこの研究が、中央アジアにおける協力と潜在的紛争原因の低減を十分に行える組織の設立に貢献する事を希望しています。

この点でも、ユネスコと日本政府の活動は、平和な世界の発展の目的に対する国際協力と支援の重要性を再度証明しています。

小渕夫人は、「ユネスコ小渕恵三研究奨学金プログラム」により、亡き夫の精神を尊重し、活かす努力に対して感謝の念を表明され、このプログラムが世界中の若い世代の人材育成に貢献することを希望されました。



左から河野通訳、松浦夫人、松浦事務局長、小渕夫人、小渕嬢

松浦事務局長は、優れた指導者であり、良き友であった小渕恵三氏の懐かしい思い出、そして、平和と開発への顕著な貢献に対する感謝の印として、

記念式典を終了するにあたり、
小淵家に「2001年度ユネスコ小淵恵三
研究奨学金給費研究員研究業績」を
進呈しました。



△ 左から松浦夫人、松浦事務局長、小淵夫人

▽ 左から松浦事務局長、小淵夫人、小淵嬢



…持続可能な開発…は、
エコロジー或いは地球温暖化
と同程度に
平和、人権そして公平の
概念とリンクされます…

持続可能な開発は、
確かに
自然科学、経済学
そして政策策定
の分野を含みますが、
私は、それは、
主に文化の問題である
と言えると思います。
即ち、それは
特定の社会により
持たれている価値と
人々が
他の人々および自然界と
自分達の関係を
理解する仕方に
関わる事なのです。

従って、我々は、
人間の必要性和
自然環境間の相互関係を
認知する
必要があります。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長
2004年4月14日パリの国立自然歴史
博物館において開かれた「持続可能
な開発の為の環境教育に関するシン
ポジウム」にて

大量生産、
大量消費、
大量廃棄という
…社会の在り方は、
地球環境に
大きな負荷を
かけております。
こうした社会の
在り方を見直し、
生産、
流通、
消費、
廃棄
といった
社会経済活動の
全段階を通じ、
物質循環を
基調とした
「循環型社会」を
構築しなければ
なりません。

小淵恵三 内閣総理大臣
平成十二年一月二十八日
第四百七十七回国会所信表明演説より

研究員の言葉

この興味深い研究奨学金プログラムは、私の科学の仕事を継続するにあたって、私に貴重な知識と必要な自信を与えてくれました。

このフェローシップは、堆積物運搬、数値解析、そして、モデル化の分野における私の知識を増大させ、博士課程、及び、学術面での経歴における前進を可能にしてくれました。

この研究のスポンサー、2002年度ユネスコ小淵恵三研究奨学金プログラムからの研究資金に特に感謝いたします。私は、この機会が、水と環境の分野における研究者としての私の能力と実績を強化してくれたものと信じます。



前列左より一人目が Ri Ho Yong、五人目が Ri Gwon Chol（朝鮮民主主義人民共和國）



上二枚：Tchéngnon Abotchi（トーゴ）



Ismail Mukhtar Zeynalov（アゼルバイジャン）



Ri Ho Yong (朝鮮民主主義人民共和国)



△ミャンマーのスイットウング川流域の一景
▽ 左 : Htun Ko (ミャンマー)



Khalid Qahman (パレスチナ自治領)



Mona Mohsen
農民とともに質問表に記入しているところ
(パレスチナ自治領ガザ地区)



Ahmed Moustafa Moussa (エジプト)
ミシシッピ大学にて



給費研究員： イスマイル ムクハタル ゼイノロフ
Ismail Mukhtar Zeynolov
受 益 国： アゼルバイジャン共和国
研究実施国： ロシア連邦
出 生 日： 1978年6月28日
出 生 地： アゼルバイジャン共和国バクー市

最終取得学位

2001年6月22日、環境保全工学専攻により、ゼルバイジャン共和国のスムガイト国立大学より修士号取得。

学術業績

2000年11月14日から16日にかけて、スムガイト市で開催された「生存活動の環境及び維持に関する第三回国際会議」発表論文 *Research of influencing factors on changes of climate over Absheron* (アブシェロンの気候変化影響要因の研究)

2000年11月14日から16日にかけて、スムガイト市で開催された「生存活動の環境及び維持に関する第三回国際会議」発表論文 *The role of the carbon dioxide in climate change* (気候変化における二酸化炭素の役割)

研究機関

ロシア連邦モスクワ国立大学

研究原題

The impact of natural and human factors on climate change in Azerbaijan and the Caspian Sea

研究期間

2002年10月6日から2003年6月6日

連絡先

ismail_anasa@aport2000.ru

アゼルバイジャン及びカスピ海における 気候変化に関する自然的及び人的要因の影響

2002年度UNESCO/小淵恵三研究奨学金により、私はモスクワ国立大学において七ヶ月間「アゼルバイジャン及びカスピ海における気候変化に対する自然的及び人的要因の影響」について研究を行った。

この研究の過程で、アゼルバイジャンにおける放射収支の諸構成要素に関するデータを収集した。

衛星及び地上観測システムから得られるデータを収集し、気象学的分析が可能なように分類整理した。データの収集は総てインターネットをとおして行い、主にNASAのサイトから得た。地上観測所からのデータ収集を世界気象機関(WMO)サービスをとおして行い、気象診断学センター(CDC)とアゼルバイジャンに在るバクー(Baki)、レンカラン(Lənkəran)、ガバラ(Qabala)、ザガタラ(Zaqatala)及びジャンジャ(Gəncə)の5観測所からの資料も使用した。衛星情報は、衛星データ処理配信局(OSDPD)をとおして収集した。

1982年から2002年間のアゼルバイジャン全領土(北緯38度から42度、東経44度から52度)に対する各月の平均観測値に関する利用可能な全データを収集し、このデータを基に放出長波放射(日中、夜間、被雲、非被雲)、被雲(日中、夜間)、地表到達吸収太陽放射(日中、夜間、被雲、非被雲)、地上最高温度と最低温度、大気圧、そして、風速の各月の平均値と標準偏差値を計算した。

こうして得られたアゼルバイジャンに関する結果は、まったく新しいものである。これにより、初めて、特定地域に対する諸観測システムから得られた選択された気候の諸特徴が、年次変動の整えられた測定値の形態で示された。

こうして得られたアゼルバイジャンのデータ時系列を拡張し、その得られた結果を地球上の他地域のものと比較する事により、実施された研究の実用的価値が実証されるはずである。

又、この時空間分析から得られた結果は、気候変化の理解と予想可能性を強化するはずである。

2003年7月17日
Ismail Mukhtar Zeynolov



給費研究員： リ ホ ヨング リ グワン チョル
Ri Ho Yong (左) Ri Gwan Chol (右)

受 益 国： 朝鮮民主主義人民共和国

研究実施国： 中華人民共和国

出生日： 1974年4月13日 1968年2月25日

出生地： 朝鮮民主主義人民共和国平壤市



最終取得学位

1997年、朝鮮民主主義人民共和国平壤市所在の金日成大学より、地質学により科学修士号取得。

1992年、朝鮮民主主義人民共和国平壤市所在の咸興水力学大学より、地質学により科学修士号取得。

学術業績

1998年から2000年にかけて朝鮮民主主義人民共和国雨季の洪水予測法に関する研究を行う。

1995年から2000年にかけて朝鮮民主主義人民共和国内の水資源量の評価に関する研究を行う。

2001年朝鮮民主主義人民共和国発行「気象学と水文学」誌第三巻11～13頁大同江における浸食と堆積評価報告書

2001年朝鮮民主主義人民共和国発行「気象学と水文学」誌第12巻32～35頁我が国河川の水質評価報告書

研究機関

中華人民共和国北京市所在の国際浸食堆積研究訓練所
(国際泥沙研究培训中心：IRTCES)

研究原題

*Management and Rational Utilization of Water Resources and Establishment of Policies for Management, Utilization and Protection of Water Resources:
Flood Forecasting Model Based on Artificial Neural Network*

研究期間

2002年9月から12月

連絡先

shma@co.chesin.com

水資源の管理と合理的利用、及び、 水資源管理、利用、保護政策の確立： 人工神経網を基礎とする洪水予測モデル

大同江は朝鮮民主主義人民共和国における最も広大な河川の一つで、その支流は多岐に伸び、複雑である。大同江流域は、朝鮮民主主義人民共和国で最も発展した地域である。大同江は、北朝鮮の中央部と南部に位置し、朝鮮の西海に流れ込んでいる。大同江の広大な流域には、極めて高い山脈、丘陵、山地と言った様々な地形学的パターンが存在する。大同江は多くの支流を有し、その流域は 1000km² を超える。

この広大な流域を有する大同江は、その流域にある諸主要都市を脅かす大洪水を引き起こす。大同江の洪水の季節は、六月から九月迄である。通常の下条件下では、洪水は七月から八月に起きる。この流域の降雨は多大なもので、平均年間降雨量は 1000mm を越える。洪水は主に雨嵐により引き起こされ、低気圧と密接な関係がある。大洪水の期間は、あまり長くはなく、その最大値が極めて高いので、こうした大洪水は、生命および財産に膨大な被害を与える。広大な大同江流域における大洪水の季節には、降雨が頻繁に在り、それは、激しく、短期間のものである。通常、大同江流域では年に大小の洪水が三回以上起こる。最近、最大の洪水時に、中央における流水量の最大値が毎秒約 2 万立方メートルに達した。こうした洪水から人民を守るため、1945 年以来、その主流と支流に数多くの堤防とダムが建設された。

我々の行った研究では、大同江流域の洪水予測に人工神経回路網 (ANN) を使用した。

ANNは、人の頭脳構造と機能を模し得る一手法で、非線形問題を認識し、扱う事が可能である。ANNの非常に重大な特徴の一つは、その適応性で、ANNは非線形問題を扱う内に、時系列データから学ぶ事ができる。ANNは、学習として知られる相互作用的手順を通して、その環境を学び、これにより、その回路網の諸係数を適合させる事が可能である。

我々は、ANNを用いた洪水予測モデルを大同江の最大流量と最高水位の予測に使用した。

このモデルに逆誤差伝搬法を使用して学習させた。そのサンプルには、1960年代から1980年代の水位と流量の記録データを使用した。そして、1990年代のデータを使い、その結果を検証した。又、流量の最大値と最高水位値を単位流量図法とマスキンガム法の双方を用いても計算した。得られた結果から、ANNモデルは、流水量予測の効果的ツールである様に思われる。伝統的水文学的モデルと比較すると、ANNモデルが洪水の即時予測の信頼性と高い精度を維持できる事が示された。

2003 年 9 月 3 日
Gwon Chol RI, Ri Ho Yong



給費研究員： アハメド ムスタファ ムウッサ
Ahmed Moustafa Moussa
受 益 国： エジプト
研究実施国： アメリカ合衆国
出 生 日： 1970年10月4日
出 生 地： エジプトのギゼー

最終取得学位

2002年1月、エジプトのカイロ所在のアイン・シャムス大学灌漑水文学部において土木工学で科学修士号を取得。

学術業績

Environmental Evaluation for High Dam in Aswan: From its construction to the present: the Sixth International Water Technology Conference (IWTC 2001), Alexandria, Egypt, 23-25 March, 2001.
(2001年3月23日から25日にかけて、エジプトのアレクサンドリアで開催された第六回国際水技術会議 (IWTC 2001) 発表論文、アスワン・ハイ・ダムに対する環境評価：建設から現在まで)

Numerical Simulation for Reach Four Flood Response: the III-regional conference on civil engineering technology and III-international symposium on environmental hydrology, Cairo, Egypt, April 8-10, 2002.
(2002年4月8日から10日にかけて、エジプトのカイロで開催された第三回地域土木工学会議、及び、国際環境水文学シンポジウム発表論文 四洪水時到達範囲の数値シミュレーション)

研究機関

米国ミシシッピ州ミシシッピ大学 National Center for Computational Hydroscience and Engineering (全米計算水工学センター) (NCCHE)

研究原題

Environmental and Evaluation Monitoring for Lake Nasser

研究期間

2003年3月から6月

連絡先

ahmed_moussa@hotmail.com

ナセル湖の環境監視と評価

ナセル湖は世界最大の人造湖の一つと考えられる。その湖長は約 500 km に及び、その平均幅は約 12km あり、表面積は約 6000km² である。ナセル湖はエジプトとスーダン両国に対する貯水場となっている。この報告書は、主にナセル湖のスーダン領側について述べている。これは、ナセル湖における堆積の殆どが、スーダン側で生じているからである。このナセル湖のスーダン部は、アスワンハイダムから 487km 地点の横断面番号 (23) から同ダム 337.5km 地点の横断面番号 (22) まで (約 150km に) 渡っている。この研究は、全スーダン部を覆う 15 横断面の 1999 年から 2001 年までを扱っている。

この研究では、水流、流速、堆積および水質の研究を行っている。その分析に当たっては、この研究により収集したデータと全米計算水工学センター (NCCHE) により開発された二次元モデルを使用して行った。この研究は、北から南に向かうに従って、背水曲線効果と湖幅の増大の為、平均流速が低下している事を示している。全横断面の堆積厚を貯水開始の 1966 年から現在まで計算する事により、最大堆積厚がアスワンハイダム 372 km 上流の横断面番 (D)、同 394km の横断面番号 (6)、及び同 378km の横断面番号 (3) における最下点にある事が分かった。各最大堆積厚は同順で 60.37m、57.95m、51.71m で、これは年平均堆積率が同順で、1.78m、1.70m、1.52m である事を意味する。

その平均堆積厚は、北から南へと徐々に減少している。ナセル湖の幅は、ナイル川のナセル湖への流入口とアスワンハイダム 394km 上流の横断面番号 (6) の間では狭い。その幅は、300m から 1000m の間で、この地区の平均水深は、6.45m から 19.7m の間である。これは、水流が堆積物を長距離運ぶ事を可能としている。

ナセル湖の水路は、アスワンハイダム上流 368km の横断面番号 (28) から急に拡大し、湖幅が 2.25km になる。そして、その拡大はアスワンハイダム上流 532km の横断面番号 (26) で約 10 km 以上になるまで続く。水深の増大 (27.8m から 33.7m へ) も流速を減少させ、堆積物を、それ以上先へ運べなくさせる。この為、アスワンハイダム上流 372km の横断面 (D)、同 394km の横断面 (6) 及び同 378km の横断面 (3) 間の領域において堆積物が堆積する。そして、その堆積厚は、これらの横断面の北では減少する。

全水質パラメータ、これには、まず物理的諸特性 (物理的要素は、視覚、触覚、味覚、あるいは臭覚にかかわる水の特性を規定する、例えば、水酸化イオン濃度、導電性と言ったもの)、そして、次に、化学的諸特性 (水は普遍的溶媒で、化学的構成は水の溶解力と関連する)、例えば、溶存酸素量、総溶解物質量、総溶存硝酸塩量、総溶存珪酸塩量があるが、これらの測定されたパラメータの値は、水質が国際基準内におさまっている事を示している。

2003年12月19日
Ahmed Moustafa Moussa



給費研究員： フトウン コ
Htun Ko
受 益 国： ミャンマー
研究実施国： 日 本
出 生 日： 1966年7月2日
出 生 地： ミャンマーのヤンゴン(旧称ランゲーン)

最終取得学位

1996年9月、ミャンマーのヤンゴン所在のヤンゴン大学において地理学にて修士号取得。

学術業績

Advertising Behaviour in Yangon City:
Yangon University, Commemoration of Diamond Jubilee, 1995.
(1995年ヤンゴン大学六十周年記念誌、
ヤンゴン市における宣伝活動)

Morphometric Analysis of Chindwin River Basin:
Myanmar Art and Science Academy Journal, Vol:1, N°1, Myanmar, November 2002.
(2002年11月ミャンマー芸術科学アカデミー誌、第一巻第一号、
チンドウィン河流域の地形計測)

研究機関

東京都立大学地理学部

研究原題

The Variation in the Drainage Basin Morphometry within Sittoung Valley

研究期間

2002年11月から2003年4月

連絡先

nay@myanmar.com.mm

スィットウング溪谷内の流域形態計測における変量

一流域内においては、その流域の環境的諸側面である土壌、植生冠、気候条件そして地質学的条件は、その河川流域の形態計測上の諸特徴に影響を与える外的作用である。通常、その流域内の物理的および人的形態計測上の形状は、その流域の形態要素として働く。この作用-形態関係を理解する事は、流域管理、河川管理、計画上、実用的な意義がある。この論文の目的は、形態計測上の諸要素の最適変数を見つけ、特定流域における流域管理を制御できる外的諸関連要素の重要性を示すことである。

ミャンマーはエーヤアディー (Ayeyarwady:旧称イラワジ) 河、チンドウィン河、サルウィン川、スィットウング (Sittoung) 川の四大河川を有す。スィットウング川流域は、その西側のバゴ・ヨマ (Bago Yoma) 山地と、その中央部の沖積平野、及び、その流域の東にあるシャン高原から成る。

スィットウング川の水源は、イエメティン群 (北緯 20 度 15 分) 近くに在り、モッタマ湾 (北緯 17 度 15 分) に流入している。流路網抽出の一般的な手法は、流路形成地点への排水需要最低維持領域である閾値領域の識別を基礎とする除去法である。研究対象地域の利用可能な DEM (デジタル標高モデル) の土地解像度の粗さの為に、TIN (不規則三角形網) 特性を元の DEM から計算し、高精度の解像度を与えた研究対象地域の DEM として標高値を持たせたグリッド・イメージに変換しなければならなかった。

我々の主要目的の為に、形状計測の最適値を得る為に簡易定量法を使用した。調査対象地域内の降雨分布が外的作用としての集水地形成要素を制御すると仮定した場合、河道保全流量の保全性と一次流域の排水密度は、その流域を維持する上流地域と均衡しなければならない。今日では、諸ダムおよび諸貯水場の建設と完成が、スィットウング川流域の上流地域に見られる。

経済的視点からは、灌漑、都市地域への洪水防止の為にダムや貯水場の建設には、多くの利点がある。しかし、ダム等の建設は、上流の集水地域の連続性を乱すだけでなく、その流域の下流地域における流水による侵食も増大させる。

従って、この流域均衡に関する気候-地生態系、社会経済文化体制、そして、人的反応の相互関連分析が、将来の研究において行われるであろう。

2003年5月15日
Htun Ko



給費研究員： チェンニヨン アボチ
Tchéngnon Abotchi

受 益 国： トーゴ

研究実施国： ベナン

出 生 日： 1963年5月10日

出 生 地： トーゴのタド-ドム

最終取得学位

1997年6月、フランスのボルドー第三大学ミシェル-モンテーニュにて地理学博士号取得。

学術業績

Dynamisme Économique et Évolution du Milieu Rural dans l'est de la Région des plateaux au Togo.
(Doctoral Thesis, 1997).

(1997年博士論文、トーゴ高原地方東部の農村部の経済動向と進展)

論文掲載国内科学誌：

Travaux et recherches géographiques, N°spécial, 1998;

Annales de l'U.B., [Université de Lomé - précédemment Université du Bénin] Tome XVIII, 1998;

論文掲載国際科学誌：

Cahiers d'outre-Mer, N° 192, 1995; Bulletin de la Société Belge d'Études Géographiques, N°1, 1996;

Afrique 2000, N°24, 1996;

Étude de la Population Africaine, N°15, 2000;

Revue Belge de Géographie, N°1, 2002).

研究機関

Laboratoire de biogéographie d'expertise environnementale (LABEE) "Université d'Abomey-Calavi", Cotonou, Benin (ベナンのコトヌ所在のアボネイ-カラヴィ大学環境生専門物地理学研究所)

研究原題

Pression démographique et gestion des ressources en eau dans la basse vallée de l'Ouémé au Sud-Bénin.

研究期間

2002年11月6日から2003年8月6日

連絡先

tabotchi@yahoo.fr

南ベナンのウエメ渓谷下流部における人口圧力と水資源管理

南ベナン、特に、そのウエメ渓谷は、この地域が享受する亜熱帯気候にともなう豊富な降雨、稠密な水路網（ソー川とウエメ川、そして、その支流、ノクエ湖とポルト-ノヴォ潟湖）、及び、帯水層を形成発達し易い地質構造により、大気、地表、地下に多大な水資源を有する。同地の地域社会は、こうした種類の水資源に慣れ親しんでおり、日々の必要に合わせて利用している。

その水資源の水質には違いがあり、従って、その利用形態（家庭での利用、経済目的による利用等々）により、時として異なる利点と難点があるが、この三種類の水資源は、この地域に住むトフィン族（23%）、ウエメ族（18.5%）、グァン族（17.5%）、エイゾ族（13%）を四大部族とする様々な社会文化グループにより使用されている。

その豊富な水資源にもかかわらず、この地域は、飲料水供給、経済的および社会的開発を目的とする水資源利用、そして、水に起因する疾病という極めて重大な三つの水問題に直面している。

実際、これらの問題は、水資源管理の仕方の結果である。水の供給、保全、保護、或いは、浄化の面であれ、如何なる種類の飲料水資源であっても、ここでは水資源の管理は、知識と、しかし、何にも増して、水資源管理の有効性を制限する迷信、タブー、儀礼、そして、民俗的慣行により特徴付けられている。

この故に、飲料水の供給不足問題、飲料水を取得するための重労働の問題、河川、湖および潟の水資源開発問題、そして、衛生の欠如と環境汚染に起因する健康問題がある。

こうした問題は、この地域において継続する人口増加、及び、強力な人口圧力により、益々深刻化している。これらの諸問題のために、ここ数年来、同国当局と非政府団体が同地域の諸村落において、井戸、鑿井の掘削、及び、貯水タンクの建設を行ってきた。しかし、こうした社会資本の管理においても問題があり、この為、破損が生じると急速に健康問題が生じ、社会資本の放棄に至る。

総てこうした問題は、ウエメ下流地域における水資源の別の管理方法を考える必要があることを示している。

その別の管理方法とは、全生活条件を考慮した、以下の四大基軸に基づく参加型統合管理である。

- ・ 村民の飲料水需要の充足
- ・ 環境の浄化と衛生の向上
- ・ 資源の経済的且つ社会的活用
- ・ 現地知識の有効活用

総てこうした施策の実施には資金を必要とする。従って、現地住民が、資金供給と導入される実行計画の策定の双方に寄与する必要がある。これが、この農業地域の水問題を解決する為に必要とされる事なのである。

2003年12月17日
Tchégnon Abotchi



給費研究員： モナ モハマド ハッサン モハセン
Mona Mohamad Hassan Mohsen
受 益 国： パレスチナ自治領
研究実施国： 英国およびパレスチナ自治領ガザ地区
出 生 日： 1974年3月5日
出 生 地： パレスチナ自治領ガザ地区

最終取得学位

2000年1月、パレスチナ自治領ガザ地区所在のアル-アズハール大学にて
化学専攻により化学修士号取得

学術業績

Synthesis of ETS-10 Zeolites and Ion exchange Isotherm:
University of Manchester, Institute of Science and Technology (UMIST), U.K, 1999.
(1999年マンチェスター大学科学技術研究所における
ETS-10沸石の合成及びイオン交換等温式)

2001年、パレスチナ自治政府環境省の陸地汚染源プロジェクト参加。

研究機関

英国バーミンガム大学、及び、パレスチナ自治領ガザ地区所在のパレスチナ化学協会

研究原題

*Assessment of pesticides Usage in the Gaza Strip and Survey
of the Residual Pesticides in the Groundwater*

研究期間

2002年11月から2003年6月

連絡先

mohsenmona@hotmail.com
m_shatat2002@yahoo.com

ガザ地区における殺虫剤の使用の評価と 地下水中の残存殺虫剤の調査

この研究は、ガザ地区における殺虫剤問題に対する広範な調査を含んでいる。その調査票の分析は、農家の健康と環境に危険な影響を与える殺虫剤取扱における深刻な問題を示している。

ガザ地区では、主に有機塩素系、有機燐系、カルバメート系、及び、ピレスロイド系殺虫剤が、年に900トン以上使用されている。その殺虫剤の大半はイスラエルで製造されたもので、その他が西側諸国の諸企業からイスラエルに輸入されたものである。しかしながら、イスラエルを含む殆どの先進国で使用制限、使用許可の取り消し、或いは、使用禁止がなされた約16種類の危険な農業用殺虫剤が、ガザ地区への搬入を許され、いまだに広範に使用されている。さらに、最も危険な燻蒸剤の一つと見られている臭化メチルが、ガザ地区では土壌に直接投与されており、その使用量は年約505.5トンに達し、同地区における全殺虫剤使用量の約54%を占めている。

**こうした危険な農薬に対する知識の欠如の
為、農民は以下の危険な行為を行っている。**

- ・ 散布に際し、防護服を着用しない（これは防護服が高価な為である）。
- ・ 何らの予防措置も行わず、或いは、防護用手袋を着用せずに殺虫剤の混合を行う。
- ・ 一部農民による（危険な）旧式散布機器の使用（これは、より安全な新型散布機器導入費用の負担ができない為である）。
- ・ 不適切な時期における間違った殺虫剤、或いは、不適切な殺虫剤の頻繁な使用。
- ・ 危険な農薬の取扱中、そして、散布中の飲食と喫煙。
- ・ より強力且つ有効な処方を生み出す事を願っての一部農民による何種類もの殺虫剤の混合。
- ・ こうした危険な殺虫剤の無規制な貯蔵、

及び、処理（殺虫剤の容器は、子供の手の届かない安全な場所に保管されておらず、空になった容器が何らの適切な処理も行われずに農地に破棄されている）。

数種類の陽イオンと陰イオンの無機汚染物質が検出される地下水汚染問題の広がりを特定する為に、多数の詳細な実態分析研究が為されているが、残留農薬による水質汚染に関する本格的な研究は行われていなかった。この研究の結果、殺虫剤、特に有機塩素系殺虫剤のDDTとエンドサルファンによる14の井戸における汚染が明らかになった。汚染された井戸の殆どは、ラファ及びカーンユニスの南部行政地区に在るが、この地区は粗放農業地帯が広がり、多量の殺虫剤が使用されている地区である。

1994年の自治協定前は、イスラエルからの殺虫剤の輸入に関する何らの規制も、管理もなかった。総ての殺虫剤には、アラブの農民が読むことのできないヘブライ語で表示がされていた。このため、殺虫剤の使用、貯蔵、処分における多くの危険な慣行を生み出す結果となった。殺虫剤の化学組成、及び、同容器への監視が全くないので、使用期限の切れた殺虫剤や不純物を含む殺虫剤が、農民により広範に使用されている。

農業用化学物質の正しい管理運用を確実にさせるための関連諸法規の策定は重要な第一歩であったが、その諸規制の実施状況は、まだ微々たるもので、まったく存在しないと言えるかもしれない。これは、装備と有資格者の不足、そして、農民、農薬販売業者および農業担当当局間の協力の欠如のためである。

それ故、環境汚染を取り締まり、公衆の健康を守るために、こうした諸規制を実施するための真の協調努力が必要とされている。

2003年11月21日
Mona Mohamad Hassan Mohsen



給費研究員： カリド アハメド カフマン
Khalid Ahmed Qahman
受 益 国： パレスチナ自治領
研究実施国： モロッコ
出 生 日： 1967年9月5日
出 生 地： パレスチナ自治領ベイト・ラヒア

最終取得学位

1998年4月、オランダのデルフト所在の International Institute for Infrastructural, Hydraulic and Environmental Engineering (IHE) (土木、水および環境工学国際研究所)において水工学専攻により科学修士号取得。

学術業績

Paper about Monitoring of Seawater Intrusion in the Gaza Strip: Proceedings of the First International Seawater Intrusion Conference, Morocco 2001.

(2001年モロッコにおける第一回国際海水浸入会議会報掲載論文、ガザ地区における海水浸入監視に関する論文)

Three-dimensional numerical models of seawater intrusion in Gaza Aquifer, Palestine: Proc. 18th Salt Water Intrusion Meeting, Cartagena, Spain, 31 May - 3 June 2004. QAHMAN K. and LARABI. A.

(2004年5月31日から6月3日かけてスペインのカルタジェナにおいて開かれた第十八回塩水浸入会議会報掲載論文QAHMAN K.、LARABI. A.共著、パレスチナのガザ帯水層への海水浸入の三次元数値モデル)

Optimal and Sustainable Extraction of Groundwater in Coastal Aquifers, Manuscript: Stochastic Environmental Research and Risk Assessment Journal, October 2004 (under publication). QAHMAN K., LARABI A., OUAZAR D., NAJI A., and CHENG A. H.-D.

(推計学的環境調査および危険度評価誌2004年10月号(発行予定)掲載論文用原稿、QAHMAN K.、LARABI A.、OUAZAR D.、NAJI A.、CHENG A. H.-D.共著、沿岸帯水層からの最適かつ持続可能な地下水の取水)

研究機関

モロッコのラバト所在のモハメド第5大学

研究原題

Three-dimensional Simulation of seawater intrusion in Heterogeneous Aquifer, with Application to the Coastal Aquifer of Gaza Strip, Palestine

研究期間

2002年10月から2003年7月

連絡先

kqahman@netscape.net
kqahman@yahoo.com

不均質帯水層への海水浸入三次元シミュレーションの パレスチナ、ガザ地区沿岸帯水層への適用

ガザ沿岸帯水層は、有史来、ガザ地区における水の唯一の自然供給源である。水は現在三千を越える井戸からポンプにより取水されており、1999年の推定年間取水量は約一億四千万立方メートルである。

現在の総取水量は、自然再充足量を超過しており、同帯水層の水収支は純欠損となっている。現在の同帯水層からの取水速度は持続不可能なもので、ガザ地区の多くの場所で地下水の水質の劣化が記録されている。

同地区は、北はファイファに至り、南はシナイ海岸に入り込む浅い砂質帯水層上に在る。

ガザ帯水層は、黄土、砂丘砂、石灰質砂岩、シルト、粘土の層を含む第四紀堆積層から成る。この帯水層は、海に向かい傾斜する面を形成しており、イスラエルとの東の境界付近では約40から50mの厚さで、海岸側では150から200mに達する。粘土層は、海岸から始まり、海から4km付近まで伸びており、主帯水層を海岸近くで様々な副帯水層に分けている。この帯水層の基底は低透水性のサキヤ(Saquiya)累層(第三紀)と約1km厚の海洋性泥土、頁岩および泥灰土の楔である。

ガザ地区帯水層の浅部における塩化源の識別に塩化物時系列における典型趨勢、水文化学的類別法(スティフザンド)、及び、地下水流線を使用した。その識別結果は、北部と南部沿岸の井戸の殆どが、海から同帯水層に向けての流れの地域内に位置している事を示している。これは、海水の浸入が、この地域における地下水の塩化の優越的要素である事を意味する。

ガザ地区南部のカーン-ヨウニス付近における横断面に沿っての海水の浸入をシミュレートするためにSEAWATコンピュータ・コードを使用した。そして、この横断面モデ

ルの結果と、同一データでSUTRAコードによって行われた以前のシミュレーション結果との比較を行った。SEAWATによるシミュレーション結果が、SUTRAの結果と良い一致を示したので、SEAWATコードを用いた三次元シミュレーションをガザの帯水層に対して行った。塩水浸入の先端部が2003年までにガザ地区北部、中部、南部の各地区の下部副帯水層において、それぞれ3000m、2000m、2500mを超える事がシミュレートされた。

そして、同帯水層からの将来の取水を予測する為に二つの管理運営シナリオを提示した。その最初のシナリオは、最悪の場合を想定し、2020年までに同帯水層からの取水量が年二億立方メートルに達すると仮定した。そして、第二のシナリオでは、海への年約千百万立方メートルの相当な放出量を保つ為に取水量が減少するものと仮定した。

そのシミュレーション結果は、第二のシナリオでは、帯水層の状態が改善し、地下水位が改善できる事が示された。

この研究は、ガザ帯水層における地下水水質の劣化は、主に同帯水層への海水浸入の結果であるとの結論に達した。

この浸入は、過度な地下水の取水により、淡水の水位が低下したために生じている。従って、同帯水層からの過度な取水を低減し、水質を改善するための行動を緊急に起こさなければならない。

ガザ帯水層の取水量割り当ての各主要構成要因を十分に数量化する事を確実にするために適切な投資と研究がなされなければならない。

2003年8月22日
Khalid Qahman

文明間の対話は、
その性格において
広義の意味での
教育的なプロセスです。

それは、
違いを有する人々が
共通点について、
そして、違いを有する
他の人々の権利を
尊重することについて
学ぶプロセスです

...

異文化間対話は、
世界中の
男性、及び、女性の
心の中に
平和を守る精神を
養うために
不可欠なものです。

それは、実際、
我々の
責務なので
あります。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長
2004年5月18日英国ケンブリッジ
大学のピーターハウス訪問時の
「文明間対話と普遍的価値」に
関する演説より

私は、
21世紀は、
人間中心の
社会の世紀
としていく
必要があると
考えて
おります。
...
このような
明日を創る
ためには、
国境を越えて
英知が集い、
その中から
生み出される
展望に基づいて、
未来に対する
確信(confidence)を
共有していくことが
何よりも
重要です。

小淵総理大臣
平生十年十二月二日
「アジアの明日を創る知的対話」
国際会議冒頭演説より

研究員の言葉

この研究は、私達に青年期の主観性の構築における暴力の存在を内在させるシンボリック・ビルディングのプロセスの可視化を可能としました。

暴力は、思春期と青年期の間が発生する葛藤の一オーガナイザーとして働きえます。その文化が、こうした暴力の儀礼化に対する拒否の形態を発展させる時に、青年期の主観性の構築過程で問題が発生する可能性があります。この儀礼化が適切に行われない場合に、我々は若者達の中に所謂「少数民族グループ」内によくある状況である極限的犠牲空間の形成を往々として見ます。



Manuel Alejandro Bilbao Zepeda (チリ)



Carlos Arturo Salamanca Villamizar (コロンビア)



Seong-Yong Park (大韓民国)



マヌエル アレハンドロ ビルバオ セベタ
給費研究員： Manuel Alejandro Bilbao Zepeda
受益国： チリ
研究実施国： フランス
誕生日： 1968年5月7日
出生地： チリのサンチアゴ

最終取得学位

1999年から2002年にかけてフランスのパリ第七大学デニ・ディドゥロにて精神病理学と精神分析専攻により博士号取得。

学術業績

2000年 La Universidad Complutense de Madrid (マドリッドのコンプルテンセ大学) の Instituto Universitario de Drogodependencias (大学薬物依存研究所) 発行誌収録論文 *薬物と家族*

2001年チリの神経神経学誌掲載論文 *語彙—薬物依存におけるモデルの実用的諸面*

2004年 L'Harmattan 社からパリで出版予定の *精神分析と遺伝学*

研究機関

Université de Paris 7, Denis Diderot, U.F.R. Sciences Humaines Cliniques, Paris, France
(フランスのパリ第七大学デニ・ディドゥロ臨床人間科学育成研究部)

研究原題

The Concept of Intercultural Dialogue from the Perspective of Contemporary Anthropology and Clinical Psychopathology

研究期間

2003年1月から10月

連絡先

abilbao@voila.fr

現代人類学と臨床精神病理学から見た 異文化間対話の概念

社会文化的変動性の概念に関連する諸問題を考慮し、この研究では農村部から都市部に移住してきた若者達により経験される暴力と文化的分裂の現象に関わる諸社会的面の研究を目的とした。

この研究は、若者の現在の暴力に影響を与えている社会文化的面を異文化適応性の概念が現在必然的に内包する問題の発現として提示している。異文化間対話が文化的違いの承認を意味するとするならば、我々は、その様な違いの拒否が、特に若者のグループ内に、生み出す可能性の有る結果について考察する必要がある。

そして最後に、我々は、この拒否の結果に関連して、実際に行われた暴力と青年達の心理的暴力を区別して、若者の暴力の発現について考察している。こうした区別は、青年期に発現する暴力行為に関する考察に必要なレベルの違いの識別を可能にする。それと同時に、こうした区別は、必要な社会的はげ口が発露の手段として発見できない場合に、この心理的暴力が採りえる形態の考察への重要なキー・ポイントを提供する。

異文化間の見方が、西洋的諸文化内における、ある若者達の「極限的統合」の分析の優れた要素を提供しえるのは、この点においてである。それ故に、この種の暴力に対する何らかの儀礼が、周辺化と社会除外の形態をとる社会グリッド内で見られる可能性がある。

暴力行為、薬物中毒、危険行為は総て、特定条件下において、文化が暴力の文化全体に向けた衝動を否定する時に、周辺化と除外の一社会的ステータスを持ちえる暴力の儀礼の例である。

又、その一方で、この分析は前資本主義的、或いは、前工業化と呼ばれる文化における犠牲と儀礼化の構築が、資本主義社会、或いは、工業化社会においても文化的に見られる事を示している。臨床精神病理学と社会文化人類

学間の相互関連に関する研究は、儀式化と犠牲の現象が青年期に持ちえる多大なる重要性を強調しながら、異文化間条件について語る時、若者達に影響を与えている社会的諸要素の研究の統一的展開を可能とする。

青年の暴力の中に発見しえる文化的現象について考察する時、我々は、青年の主観性の構築における、この暴力の存在を内包するシンボリック・ビルディングの進行の可視化を試みた。

従って、暴力は破壊の一要素であるだけではなく、自己への攻撃、或いは、他者への攻撃でもありえる。これは、思春期と青年期に発生する葛藤の一組織要素として働かえるからである。これ故に、こうした暴力の儀礼化に対する拒否の形態を発展させる時には、青年期の主観性構築期に何らかの問題を観察する事になろう。

この儀礼化が適切に行われない場合、我々は若者達の中に所謂「少数民族グループ」内によくある状況である極限的犠牲空間の形成を見る。

最後に、この研究では、関連する若者文化内における若者の暴力の発生に関する考察に対する幾つかの考察を展開している。それは、そうする事により、家族グループの内部における暴力の発生に関する考察が発展するからである。

この研究は、若者により発現され、文化面の承認に付される青年暴力に関する考察についてではなく、個人、社会、そして、家族像の三面における青年の行動に関する考察なのである。

2004年1月12日
Alejandro Bilbao



給費研究員： カルロス アルトゥロ サラマンカ ヴィジャミサル
Carlos Arturo Salamanca Villamizar
受益国： コロンビア
研究実施国： フランス
誕生日： 1973年10月8日
出生地： コロンビアのボゴタ

最終取得学位

2000年にフランスのパリ所在の *École de Hautes Études en Sciences Sociales* (社会科学高等研究学院) にて、民俗学と人類学でD.E.A.(高等研究学位)取得。

学術業績

Historias Nunca contadas sobre la Historia y la Organización Política de las Comunidades Tobas: Buenos Aires: Ediciones del Tatú, 2001, Israel Alegre y Timoteo Francia; comp. Carlos Salamanca y Florencia Tola. (2001年Tatú出版刊 Carlos Salamanca, Florencia Tola.編 Israel Alegre, Timoteo Francia 著 *歴史家と政治組織が決して入れなかったトゥファのコミュニティーの物語*)

建築家としての民俗学的活動：

The production of the other : Prensa Scripta etnológica, Centro Argentino de Etnología Americana, 2001. (2001年アルゼンチン・アメリカ民俗学センター刊 Scripta etnológica *他者の所産*)

La brujería como discurso político entre los tobas del Chaco argentino: México: Desacatos, 2001. (2001年メキシコのDesacatos 誌収録論文アルゼンチン・チャコのトゥファ族間の政治演説的魔術)

Expressions architecturales de la multiculturalité: En presse. Paris: Architecture d’Aujourd’hui, 2004. (2004年、パリ刊「今日の建築」に出版中の論文 *多文化性建築表現*)

研究機関

École d’Architecture de Paris la Villette (Laboratoire d’Anthropologie / Architecture), Paris, France (フランスのパリ建築学ピレット校 (人類学/建築学研究室))

研究原題

The architectural practice in the local contexts

研究期間

2003年5月から12月

連絡先

salamandra_archt@hotmail.com

地域コンテクストにおける建築

この研究では、我々は歴史的、地域的、そして、多文化的視点からアルゼンチンのチャコの都市、都市近郊、及び、農業集落の空間的状况を理解する事から始めた。交通および通信の困難な辺境地にある地区と原住民集落の位置は、人種の区別を考慮した特別な政策を負わせる。

原住民諸地区における周辺化に加え、貧困が2002年に紛争を発生させた。こうした紛争は通常、異人種間の地域的緊張の高揚、そして或いは、増大に資する短絡的な一視点から解釈されている。

個々の原住民組織の行動と言動は、この地域において我々の行った分析と同じく、限界的存在の諸状況が異文化間対話の確立に対する一障害である事を示している。

貧弱な衛生、或いは、人的諸空間の技術的状况の方が、空間の生産、使用、調整、及び、維持における技術的、或いは、審美的な社会的能力の不足よりも、排除、周辺化、そして、貧困のより大きな原因である。従って、空間の建設、及び、その適応形態は、社会的超克や業績からは程遠く、通常、政治的クライアンティズムと支配の道具であるため、建築プロジェクトの結果は、周辺化と不平等の再生産の一因となる。

更に、歴史は可視性に対する争い、或いは、紛争の発生に馴染みがなくはない。文化的遺産は、異文化間関係の分析における一重要項目である。入植者達は、主役として、そして、拓殖は、英雄的物語として、記念碑、彫刻、そして、博物館の中の何処にでも存在する。

原住民達は「輝かしい過去」に分類されており、その手工芸と公開演技において高い地位を与えられ、都市と地名、テーマパーク、公共の場の名と、違いの認知が往々としてエキゾチックな見世物になる最近の「新しい観光」において敬意は受けてはいる。しかし、実際のところ、原住民自身の物語や原住民版の歴史の同化による原住民諸地域社会の統合を目的とした政府の活動は、極めて不十分である。

原住民用に設計された住宅及び基盤整備計画の研究により、我々は空間との関係における人種的諸差異の承認に関心はあるが、この承認は（ある興味深い例外を除き）計画立案とプロジェクト設計においてユーザーの介入、及び、参加の方法論に係る確固とした前進の欠如を見る事ができる。

地域コンテクストにおいて、建築家自身が社会的慣行に対して責任が在ると宣言している。こうした責任の建築家への排他的な集中は恣意的であり、参加的、自立的、そして、責任ある社会の建設の必要性に反する。社会的不平等と大学への限られたアクセスは、ラテン・アメリカでは普通の事であり、限られた人々しか建築家になれない事を意味する。

この研究は我々が、建築を一学問分野としての考えを越えて、それが社会的、経済的、そして、文化的行為であり再生産の基礎形態である事を発見する事を可能にした。諸相違点の承認は、全く多様な諸社会、及び、諸文化を均質化する傾向を、そして、空間の産出と組織化の一共通基盤の想定された存在の上に建てられた傾向を否定する。相違の承認は、建築家とその建築家のプロジェクトの政治的、社会的正当性に制限を置き、技術的、或いは、審美的知識を所有する唯一の者としての建築家の独占にも疑問を投じる。相違の承認は、自分達の空間、及び、それを産み出す社会的活動が自分達の人種的な違いと独自性と密着している権利を主張する可能性を別のセクターへも開く。

2003年11月21日

Carlos Arturo Salamanca Villamizar



ソ ン ヨ ン パ ク
給費研究員： Seong-Yong Park
受 益 国： 大韓民国
研究実施国： オーストラリア

出 生 日： 1962年8月3日
出 生 地： 大韓民国仁川市

最終取得学位

2001年12月、大韓民国京城市所在の韓国開発研究院公共政策・経営学大学院にて「戦略と国際経営」により経営学修士号取得。

学術業績

The Changing Values of Music: In Search of New Creativity:
Korea UNESCO News, monthly periodical, October 2000.
(月刊韓国ユネスコ・ニュース2000年10月号
音楽の変化する価値：新たなる創造性を求めて)

*Strategies to promoting the Preservation of Intangible Heritage
and Desirable Directions for International Cooperation in this Field:*
Korea UNESCO News, monthly periodical, February 1997.
(月刊韓国ユネスコ・ニュース 1997年2月号
無形遺産の保護促進への戦略、及び、
同分野における国際協力に対する望ましい方向付け)

The World Heritage and its Attendant Problems: Book, Sol Press, December, 1996.
(1996年12月ソル出版刊 世界遺産とその付随問題)

研究機関

オーストラリアのブリスベン所在のグリフィス大学
Australian Key Centre for Cultural and Media Policy
(オーストラリア文化メディア政策主要センター)

研究原題

Study on New Approaches of Cultural Tourism for the Promotion of Inter-Cultural Dialogue

研究期間

2003年5月から12月

連絡先

sypark@unesco.or.kr

異文化間対話促進のための文化観光の新諸策に関する研究

2002年度ユネスコ小淵恵三研究奨学金プログラムに参加する事により、私は2003年6月から同年6月までオーストラリアのブリスベンに在るグリフィス大学の芸術メディア文化学部で異文化間対話促進の分野における学術的研究を行う機会を得た。私の研究の主題は、オーストラリアのクイーンズランド州の例に焦点を当てた「異文化間対話促進のための文化観光」であった。

国際社会における今日の人種的、民族的、及び、宗教的紛争の状況を考慮すると、文化的多様性の増進は世界平和強化の最も重要な手段であると私は信ずる。

私の研究の根底にある考えは、如何にして持続可能な文化観光が異文化間対話の促進に貢献するかについての調査に端を発している。

文化観光は、各社会の地域発展の育成と同時に、文化的理解強化の重要な方法の一つとして認識されている。観光が一般的に経済指向である一方、文化的観光は文化資源の地域開発への利用と異文化間対話の促進の双方に役立つ。

オーストラリアのクイーンズランド州を研究対象として選んだのは、同州が、その社会の多文化的背景と同時に際立った自然環境に恵まれた文化的観光資源で良く知られているからである。

この研究の間に、北クイーンズランド、黄金海岸、南東クイーンズランドを含む幾つかの観光地域を訪問し、専門家、学者諸氏と会い、フェスティバルへの参加等により事例調査を行った。

この研究を通して、文化的観光、及び、異文化間対話の促進におけるその役割に対する概念とスコープの定義に努めた。

又、私は、文化的観光の現在の状況とクイーンズランドにおける関連政府組織の活動も分析した。

私の最終報告においては、文化的観光監視過程の評価の枠組に対する有益な一基準を提供する「文化的観光の質モデル」を紹介している。

私は、この種の「質モデル」が——このモデルは、その一部を異なる観光環境の異なるニーズに合わせて補足、或いは、変更する事が可能——文化観光の監視、及び、地域レベルでの持続可能な文化的観光の発展促進のための基本的、且つ、有用なツールでありえると信ずる。

この研究論文の最後で私は、各地域社会が文化的多様性と異文化間対話を助長する一重大要素としての持続可能な文化観光を確立し、発展させるのを助けるための洞察を提供している。

「発見の本当の旅は新たな景観を探し求める事からではなく、新たな目を持つ事から成るのである。」(マルセル・ブルスト) この引用を聞いた時、私は、望ましい文化的観光と異文化間対話は、人々が「新たな目」を持つことを鼓舞する何かを探す事から始まるのではないかと自分自身に問うた。

私は、ユネスコ奨学金課、韓国ユネスコ委員会の同僚、そして、グリフィス大学に心より感謝するものである。そして、私の研究への洞察に満ちた指導に対し、特にロビン・トロッター博士、及び、クオン・フフ氏に感謝する。

2004年2月27日
Seong-Yong Park

ユネスコの
主要任務の一つは、
様々な考えと
科学的知識の
自由な交換の
促進であります。
又、もう一つの
主要任務として、
科学的知識の
維持、
増強、
そして、
普及が
あります。

こうした任務が、
今日ほど
意味がある事は
在りません。
情報通信技術は、
科学的知識の交換、
教育と訓練の拡大、
そして、
創造性と
異文化間対話の
促進を通して、
人類の発展の
新たな境地を
開いています。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長
2003年12月11日にスイスのジュネーブ
で開催された「世界情報サミット」の
科学、情報社会、そして、ミレニアム
開発目標に関する円卓会議]にて

… 人類を取り巻く
大きな環境の変化の
一つとして
いわゆる
「IT革命」が
あります。
…
いわゆる
「デジタル・ディバイド
(情報格差)」の問題も
生じており、
この問題には、
先進国と途上国との
格差の問題と
先進国の国内での
格差の問題との
二つの側面があり…
情報の面における格差が
経済格差を更に
大きくしてしまう
おそれがある…
こうした
経済社会のあり方を
大きく変える
流れについて…
忌憚の無い
議論をし…たい…

小淵恵三総理
平成十二年二月二十八日東京
九州・沖縄サミットに関する
懇談会における挨拶より

研究員の言葉

全学生が、利用可能なインターネット接続により知識社会に参加できなければならない。

より良く仕えるために、より多くを学ぶことのできる充実した経験でした。

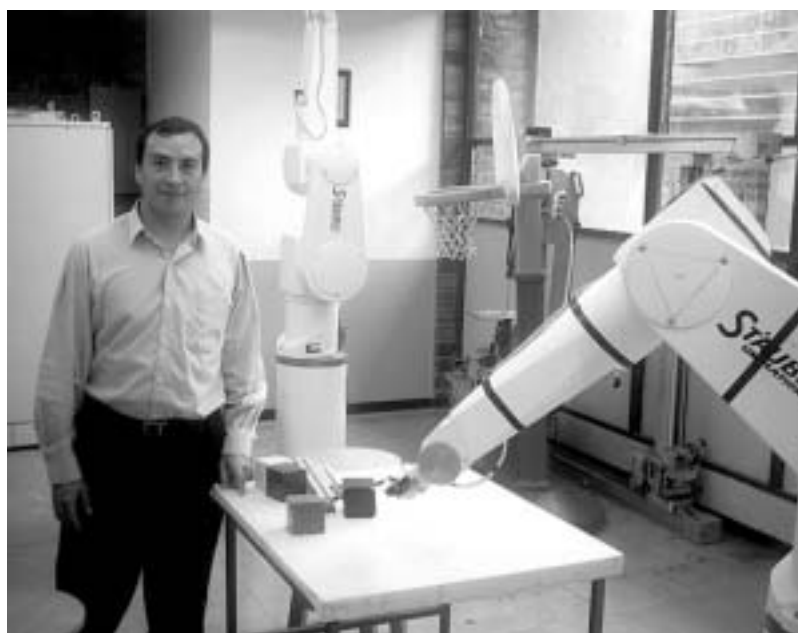
現代的情報通信技術をネットワーク、研究、そして、専門的問題と事項に関連する情報の共有に十分利用できるようになりました。

専門的な経験と文化交流の大いなる機会でした。

ユネスコ小渕恵三研究奨学金プログラムへの参加は、まさに生涯の経験です。



Jakov Kitarović (クロアチア)



Janio Lincon Jadán Guerrero (エクアドル)
ロボット・アームの作業中



Alexei Moroz (ロシア連邦)



Luz Marina Pérez (ベネズエラ)



Florence Muinde (ケニヤ)



給費研究員： ヤコフキタロヴィッチ
Jakov Kitarović
受益国： クロアチア
研究実施国： アメリカ合衆国

出生日： 1968年10月4日
出生地： クロアチアのリエカ

最終取得学位

クロアチアのザグレブ大学で技術科学の電気工学ラジオ通信専攻により
科学修士号取得

発表論文

2001年 Elmar Conference (エルマー会議) 発表論文
Vulnerability Assessment of GPS for Marine applications
(全地球測位システムの海洋上利用における脆弱性評価)

1997年クロアチア開催のエルマー会議発表論文
Differential GPS as a solution of improved accuracy of radiolocation systems
(ラジオ測位システムの精度改善策としての相対全地球測位システム)

研究機関

米国ワシントン特別地区ワシントン市所在のジョージ・ワシントン大学
電気及びコンピュータ工学部デジタル・メディア電波研究室

研究原題

Internet Communications Over Power lines

研究期間

2002年9月から2003年3月

連絡先

jakov@pfri.hr

電力線によるインターネット通信

電力線の初期目的には、通信信号の伝送は意図されていない。従って、実用的計画は、既存の電力線網から生じる障害を克服している必要がある。電力線をインターネット通信に利用するには、発電所と変電所から来る高電圧、及び、中電圧電流を家庭で使用する低電圧電流に変圧する変圧器が主要障害となる。

電力線網により提供される通信チャンネルは極めて敵対的なもので、その通信チャンネルは、周波数と時間の双方で変動があり、インピーダンスが変化し、比較的高レベルのノイズと減衰に苦しめられる。

電力線網を通して広帯域信号を送送するために、異なる変調と符号化技術の利用が可能である。問題は、高周波使用を制限し、広帯域情報フローのボトルネックとなるローパス・フィルターとして働く中電圧/低電圧変圧器を信号が通過する時に発生する。

低電圧インターネット接続への一革新的技法が、ジョージ・ワシントン大学のデジタル・メディア研究室の研究者達により、提案されていた。この方法は、バイナリ信号の有限アルファベット (FA) プロパティと受信信号のブラインド分離を可能にする負荷インピーダンス (LI) 技術を組み合わせたASK (振幅シフト・キーイング) 変調方式を使用している。この方式は、変圧器による周波数の切り落としを避けるため低変調周波数を使用する。

全ネットワーク使用者が同一のASK変調周波数を使用し、同時に伝送を行う。使用者の信号は、それぞれに設定される増幅レベルだけが異なる。

劣決定ブラインド信号分離 (underdetermined blind signal separation (uBSS)) アルゴリズムの適用により、各信号を認識し、受信信号の和から受信側により分離できる。

この様にして、ネットワークの異なる使用者が同時に通信でき、多数接続が比較的簡単なブラインド分離技法により提供される。

私は、このユネスコ小渕恵三研究奨学金により行った研究が、ジョージ・ワシントン大学のデジタル・メディア研究室により行われた研究と同様、電力線によるインターネット接続の改善に繋がる事を希望する。この研究は、電力線により、新たな架線の必要を無くし、インターネットへの、そして、世界への接続の期待を遠隔地の住民に与えるものである。従って、最も費用対効果の高い方法による遠隔地住民の世界への接続確立の可能性と教育の機会を開くものである。

2003年5月4日
Jakov Kitarović



給費研究員： ハニオリンコンハダングェレロ
Janio Lincon Jadán Guerrero
受益国： エクアドル
研究実施国： コスタリカ

誕生日： 1968年5月6日
出生地： エクアドルのアンバト

最終取得学位

コスタリカ大学で情報工学専攻により科学修士号取得。

発表論文

1999年11月ニカラグア開催の la XIX Convención Centroamericana y Panamá del IEEE (CONCAPAN XIX) (第十九回中央アメリカ及びパナマ電気電子学会大会) 発表論文 *Compresión Fractal de Imágenes* (フラクタル画像圧縮)

コスタリカ大学工学誌2000年1月号収録、及び、1999年10月メキシコ開催の Día Internacional de Seguridad en Cómputo (DISC 99) (電算国際セキュリティ・デー'99) 発表論文 *Sistema de Detección de Intrusos incorporando características biométricas* (生物測定学的諸特性を取り込んだ侵入探知システム)

研究機関

コスタリカのサン・ジョゼ所在のコスタリカ大学大学院コンピュータ情報科学科

研究原題

New Information Retrieval Techniques and New Multimedia Systems Generation in order to facilitate the Learning of the Students

研究期間

2003年2月から8月

連絡先

jjadan@jbmconsultores.com

学生の学習を支援する新情報検索技術と 新世代マルチメディア・システム

このプロジェクトはコスタリカ大学のコンピュータ科学院で行われた。その目的は、様々な分野の知識の応用に対するフレームワークの提供にあった。このプロジェクトは、情報検索、マルチメディア、及び、ウェブ開発分野の理論を含んでいる。我々の目的は、ユーザーの為に働くソフトウェア・エージェントを作成する事により、学生が学習を行えるプラットフォームを提供する一方、研究論文を揃え、分類する自動化されたツールを作り出す事であった。

我々が提供するプラットフォームは、二つの目的を有する。その一つは、文献資料を揃えるためのツールを提供することにより、調査を支援する事である。もう一つは、学生が自動化されたエージェントにより、人間の仕事を代替する事ができる実験的フレームワークを提供する事である。

このシステムの目的とする所は、研究者が科学論文、文献情報、文献に関連するノート及び要約を取り扱う事を可能にするユーザーに使い易いツールの提供である。

このツールはユーザーが行う各研究プロジェクトに関連する参考文献リストを自動的に生成する。

情報検索クラスのパーツとして、学生は自己の分野内の小プロジェクトと実験を行う。これは、プロジェクトが学習過程を濃厚にする方法である。学生は、実際の問題を解く理論、技法、アルゴリズムを使用し、発見した事をツールの改良に利用できる。情報検索技法を基礎にしたエージェント技術を導入する事により、大学院生は自己の分野における研究を行うフレームワークを得る。その目的は、人間より通常行われる仕事を代わりに行うエージェントを徐々に加えてゆく事である。

我々が作り出したエージェントの例として、

以下のものがある。最初のエージェントは、ユーザーの必要とする情報に応じた利用可能なオンラインの論文を集める。次のエージェントは、ノートを加え、自動的に論文の要約を行う。最後のエージェントは、情報を閲覧し、検索するための異なるグラフィカル・インターフェースを持ち、自動的に論文のカテゴリを作成し、分類を行う。

研究者が参考文献、及び、その他の文献資料を揃えるのを助けるプロットタイプ・ツールとして始めに得た成果が、BibEcciである。この種のツールの有用性は、このプロジェクト用の参考文献の収集時に顕かになった。このツールを使用することで、如何なる論文の参考文献一覧でも自動的に生成できる。

又一方、このツールは、新たなモジュールに簡単に取り込むことができる。エージェントを作成し、それをこのプラットフォーム内に取り込むために幾つかの情報検索技術が利用可能である。

最後に、この時点までに達成された目標と、さらに続くべき次の段階を考察したBibEcciに関する論文を書いた。この論文では、始まったばかりのトレンドと、それに続く研究について考察している。

2003年8月26日
Janio Lincon Jadán Guerrero



給費研究員： フロレンス ヌズィサ ヌズウィリ ムインデ
Florence Nzisa Nzwilli Muinde
受益国： ケニヤ
研究実施国： カナダ
誕生日： 1965年8月28日
出生地： ケニヤのマクエニ

最終取得学位

1998年ケニヤのケニヤッタ大学にて図書館学により教育学修士号取得。

発表論文

1998年、ケニヤにおける修士論文のための研究プロジェクト *A survey of School Libraries in the Central Division of Machakos District to Establish how well their Resources met the needs of the Current Education System* (如何に教育用資源が現行の教育システムの必要性に適合しているかを確定するためのマチャコス県の中央地区における学校図書館の調査)

1998年、英国教育省、ADID、国際開発省 (DFID) の教科書購入用資金配分用参考調査 *A Baseline survey on Certain Public Schools to establish their poverty Level* (貧困レベル確定のための特定公立校に関する基礎調査)。

研究機関

カナダのバンクーバー市所在のブリテッシュ・コロンビア大学言語及び識字教育学部
(Department of Language and Literacy Education)

研究原題

The role of open access journal systems in research capacity development: case of Kenya

研究期間

2002年9月から2003年6月

連絡先

fmunde@yahoo.com

研究能力の拡大におけるジャーナル・システムへの オープン・アクセスの役割：ケニアの事例

この研究の焦点は、公共部門、そして、特に大学と研究機関における研究結果に関連する情報の発行と共有を通して研究能力を強化する新発行技術の利用可能性を探索することであった。

この研究は、オンライン学術誌の発行に関する見通し、過程、問題、及び、希望について探索し、知識を創出し、流通する国際ネットワークへ、より多くの人々が参加する可能性を見極めること意図している。

特に、この研究は、アフリカの大学、特にケニアの大学での研究能力の拡大におけるオンライン・ジャーナル発行の役割の調査に関与している。

特に、この研究は、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学により開発された開放接続発行管理ジャーナル・システムであるOJSが、地域的、及び、国際的知識情報の共有を通して調査能力を押し上げるのに利用できるかどうかを調査した。

この研究は、以下の特定目標により進められた：

- 電子ジャーナルの学界、即ち、教授陣、学生、司書、及び、研究教育方針作成者の情報交換と研究能力拡大の双方への貢献可能性を確定する事。
- 研究者間の情報の流通と共有に貢献できる電子ジャーナルのサポートの技術的、及び、経済的実現可能性を探索する事。
- こうした電子ジャーナルが、同僚間のネットワーク育成と同じく、世界的知識交換による地域知識創出を促進する事が可能であるかどうかの確認。

この研究の背後にある仮定は、技術的、経済的、社会的、そして、知性的観点から新発行技術が、より広範な知識の世界的交換と同様に、地域的知識の拡大に貢献する事により、ケニアの研究能力の改善手段を提供できると言う事であった。

この研究の予期される結果は、以下の通りであった：

- アフリカの大学における大学の研究能力の向上、及び、世界的知識体系内でのより多くの参加提供手段としてのオンライン学術（情報知識）発行を実現する際に克服すべき課題、可能性、及び、障害に関する情報に基づく分析。この分析は、より良い発行ソフトウェアの作成と同時に、異なる分野の新オンライン・ジャーナルに対する指針として利用されるであろう。
- 知識の創出と普及、そして、関連分野の知識に関する専門的討論へ能動的に参加する学術研究者の学識を有する能動的な組織体。
- 教授陣、専門家、及び、方針作成者間の教育における学術的、地域的仕事に焦点を当てたネットワーク形成の改善。
- アフリカの学術的発行物、特に、ケニア発の知識と学術的貢献の世界的な可視性の増大。電子ジャーナルが関係者に自己の考えを伝える手段と声を与える事が望まれている。

2003年8月8日
Florence Nzisa Nzwilli Miunde



給費研究員： アレクセイ モロズ
Alexei Moroz
受 益 国： ロシア連邦
研究実施国： 英 国
出 生 日： 1977年1月14日
出 生 地： ロシア連邦のモスクワ

最終取得学位

2000年にロシア連邦モスクワ所在の Moscow Power Engineering Institute
(モスクワ電力工科大学) にて工学修士号取得。

発表論文

ロシア語の科学実学誌 Exponenta Pro (エクスポネンタ・プロ) 応用数学2004年号掲載論文 *Using MATLAB functions in Java Applications* (ジャバ・アプリケーションにおけるMATLAB関数の用法)

2003年、BT内部プレゼンテーション *Three Layer Architecture with Java in Enterprise Applications*
(ジャバによる企業用アプリケーションにおける三層アーキテクチャー)

モスクワ国立公開教育大学の科学誌 Pedagogical Informatics (教育情報科学) 2002年第3号掲載論文 *Distance Education Problem Analysis* (遠隔教育問題の分析)

研究機関

英国ノッティンガム市所在のノッティンガム・トレント大学工学大学院

研究原題

Development of Dynamic Web Publishing Technology for Distance Education in Russia

研究期間

2003年5月から8月

連絡先

alex_real@mail.ru

ロシアにおける遠隔教育用の動的 ウェブ発行技術の開発

これは、英国ノッティンガム・トレント大学の建設、電算、及び、技術学部での研究プロジェクトにおける私の3ヶ月間にわたる教育訓練の要約である。

プロジェクトの目標

- 遠隔学習システムに応用されたシステムとしてのウェブ内容更新システムとウェブ内容発行システムの習熟。
- 教育機関で使用するための普遍的ウェブ内容管理運営システム構築の可能性に対する評価。
- こうしたシステムの遠隔教育への応用の実用性の評価。
- 情報通信分野以外の専門家による同システムの応用に関する研究。
- 教育機関用ウェブ内容管理運営システムのデータ・モデル、及び、同システムの試作。
- 開発したシステムの遠隔インターネット・サービスとしての使用可能性の評価。

プロジェクトの概略

このプロジェクトには四段階があった。

第一段階は、必要不可欠なウェブ内容管理運営システム・クラスの習熟であった。従って、ウェブ内容管理運営システムの特長と分類の作業を行った。そして、こうした諸システムの応用の可能性を判断した。

第二段階は、第一段階の判断に基づき、ウェブ発行システムの試作を行った。

第三段階では、MySQLデータベースを基に実用データ・モデルを試作した。

最終の第四段階では、ジャバ・テクノロジー（J2EE / J2SE）を使ってシステムを試

作した。試作したシステムは、アプリケーションを軽処理能力クライアント、アプリケーション・サーバー、そして、データベースに分かれる三層アーキテクチャーを使って構築された。

結論

遠隔教育用ウェブ内容管理運営アプリケーションの実用可能性研究は、ノッティンガム・トレント大学における私の研究主題であった。試作システムを開発し、複雑なウェブ資源をサポートするデータ・モデルも作成した。この開発したシステムを用いると、教育機関用の複雑なウェブ資源を創出し、サポートする事も容易である。このシステムは、ビジネス分野から情報通信とデザイン作業を分け、ウェブ資源のサポートの主要問題を解決するのに役立つ。現時点では、ウェブ資源の開発とサポートは、教育機関の開発の面で極めて重要である。

この研究奨学金は、私に別の文化を経験し、欧州において開発されたウェブ管理運営システムを理解する機会を与えてくれた。これは、英国を含む西側諸国における、こうしたシステムの構造、及び、その構築の諸目的を理解する助けとなった。又、英語を実際に使用し、コミュニケーション技術を改善する良き機会でもあった。これは、自分の専門分野での成長に大いに助けとなった。

2003年7月29日

Alexei Moroz



給費研究員： ルスマリナペレス
Luz Marina Pérez
受益国： ベネズエラ
研究実施国： スペイン
出生日： 1965年5月29日
出生地： ベネズエラのカラカス

最終取得学位

1997年から1999年にかけてベネズエラのカラカスの Simón Bolívar (シモン・ボリバー) 大学に在学、Especialista en Informática Educativa (教育情報科学専門士) 資格取得

発表論文

ベネズエラのカラカス刊CENAMEC発行 Boletín Multidisciplinario (学際報) 1991年第三号掲載のコンピュータを用いた教育プログラムに関する論文 *Acercándonos al Petróleo (石油への接近)*

1999年スペインのマドリッドの国立遠隔教育大学 (UNED) で開催されたCongreso Internacional de Informática Educativa (教育情報科学学会国際大会) 用論文 *Diseño Metodológico para la Evaluación y Uso de Materiales Educativos Computarizados (コンピュータ化された教材の評価と利用のための教育方法論的デザイン)*

研究機関

スペインのマドリッド所在の"Universidad Nacional de Educación a Distancia" (国立遠隔教育大学)

研究原題

The contribution of Information and Communication Technologies to the development of education, science and culture, and to constructing a knowledge society

研究期間

2003年2月から8月

連絡先

uzmarinaperez@hotmail.com

情報通信技術の教育、科学、文化の発展、 及び、知識社会建設への貢献

この研究は、コンピュータに基づく教育資料（スペイン語の略称でEMC）を評価し、利用するための、利用者の必要性に適合した高品位の教育プログラムを選択するのに必要な諸技能を提供できる新たな教育方法を設計する事を目標とした。この目標を達成するために、体系的、且つ、整合性のある教育方法論を構築する一連の活動を基礎とする戦略を提案した。

この教育方法論は、文献研究の結果である。この論文は、ベネズエラ、その他の国でも、該当する機材を使用する技能を有する教師、及び、関係者が情報通信技術（スペイン語の略称ではTIC）を、特にコンピュータに基づく教材を選択し、利用する必要性に込んでいる。これは、ある著者達によれば、大多数の教師、及び、関係者が、授業で使用するコンピュータに基づく教材を選択して利用するのに従うべき、より良い知識を得るのに必要とされる最低限の事である、簡潔な手順を有していないからである。

教育システムの最初の3レベルにより提案されたこの教育方法論と機材は、7名の専門家から成るグループにより、教育方法論と機材の改善に関するコメントを得るために試験された。

このグループの全員が、コンピュータに基づく教材の選択、及び、選択された教材の活用に関する有用な指針として、この新たな教育方法論の有効性と正しい適用について合意した。

コンピュータに基づく教材の評価と活用を行うための新たな方法が、（2003年10月から）教員を指導するために教室で使用される。この方法は、その信頼性と教育プロセスへの全参加者に対する影響を我々が計測できるまで、完全なものにはならないであろう。

2003年8月15日
Luz Marina Pérez

ユネスコの
一重大関心事は、
暴力を防止し、
寛容と安全の
思潮を強化し、
そして、
平和、
寛容
および
相互理解への
評価と同じく
紛争の
非暴力的解決能力の
拡大を促進
するための
人格形成のための
教育の振興
であります。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長
2003年2月26日パリにおける
「教育と科学による平和と安全の
推進：テロリズムに対する国連戦
略の要素」に関する機関間会議の
開会の辞より

旅の中で
最も印象付けられたのは、
戦禍、
貧困、
病気に
苦しみながらも、
雄々しく
自分達の夢を
追求している
人々の姿でした。
この経験により
私は、
より安全で、
より快適な
世界を築くために、
人々が国境を越えて
手をつなぐ
必要があることを
痛感させられました。

小淵恵三 外務大臣
1998年5月4日
国際会議「21世紀への展望
－日本と東アジア－」にお
ける演説より

研究員の言葉

平和的紛争解決の分野に対するこの研究奨学金は、私が国際紛争解決の実務家、平和建設者としてのキャリアを開始する助けとなりました。

この研究奨学金は、私がキューバでコーディネートした紛争解決トレーニング・プログラムにより、私の経験を広げ、私の技能を向上させる機会を与えてくれました。

この研究奨学金は、中国に対する私の関心事を追求し、理解を広げる素晴らしい機会を与えてくれただけでなく、この国の平和的潜在能力を発見する望みをもって、中国に関する科学的研究を極める大いなる機会を与えてくれました。



A.H.M. Shamsul Muktedir (バングラデシュ)



María Carla Alzugaray (キューバ)



Venera Galyamova (カザフスタン)



Leslie Shyllon (シエラ・レオネ)



給費研究員： シヤムスル ムカタディル
A.H.M. Shamsul Muktadir
受 益 国： バングラデシュ
研究実施国： パキスタン

出 生 日： 1962年1月1日
出 生 地： バングラデシュのディナジプール

最終取得学位

1985年、バングラデシュのダッカ大学にて国際関係により社会科学修士号取得。

学術業績

1995年3月バングラデシュ、ダッカ刊
Impact of Foreign Aid on Bangladesh-SIDA as a Case of Study (Research Project),
(外国援助のバングラデシュへの影響—スウェーデン国際開発(協力)庁の事例研究
(研究プロジェクト))

1991年から1994年にかけてダッカで内部（非公表）政治経済研究プロジェクトに参加。

研究機関

パキスタンのカラチ所在のカラチ大学国際関係学部

研究原題

*Conflict Management between Bangladesh and Pakistan:
Finding Ways of Greater Co-operation*

研究期間

2002年12月から2003年9月

連絡先

fmunde@yahoo.com

バングラデシュとパキスタン間の摩擦の管理： 協力の拡大の道を求めて

1971年12月16日の独立国としてのバングラデシュの出現は、バングラデシュとパキスタンの間に数々の問題を引き起こした。今なお、その幾つかが未解決のまま残っている。こうした問題が存続する間にも、協力を拡大するための試みを推進しなければならない。

この報告書は、2002年度ユネスコ小渕恵三研究奨学金により主に賄われた2002年12月28日から2003年9月28日までパキスタンにおいて実施された研究を基にしている。この研究には、バングラデシュ出身の一研究者の現地直接経験が記録されている。

この報告書は、現在バングラデシュとパキスタンの間の摩擦には、二つの核となる問題があることを指摘している。それは、以下の二点である。

- 1971年の東パキスタンが西パキスタンから分離した戦争が、バングラデシュにとり解放戦争であった事をパキスタン側が実質的に承認していない事。
- 1971年以降、合意による本国送還によるにしろ、現在自己の属するより大きな共同体への吸収によるにしろ、別国領に移住させられた国民の法的地位問題の解決。パキスタン側から、1971年の戦争を東パキスタンの裏切りと見なす代わりに、バングラデシュの開放戦争であるとの事実上の承認を得るのは、パキスタンにおいて民主主義が適切に慣行化するまで、不可能であるかもしれない。この二番目の問題は、各国の移住させられた国民へ二重国籍を提供する事を相互に宣言する事により、解決が可能であろう。

この研究に基づき、以下の勧告を行う。即ち、

- 両国間の摩擦の解決に向けた第一歩としてパキスタンとバングラデシュの学校と大学の教科書をバングラデシュの誕生の客観的歴史を反映したものに改定する。
- 移住させられた国民の法的地位の決定は、全世界的な人道上の問題と見なす必要がある。この人道上の問題に取り組むために、より精力的に国際的支援を求め必要がある。そして、この問題は、相互主義的に取り扱われ、交渉される必要がある。
- 相互協力拡大の可能性のある分野には、以下の様な分野が存在する。即ち、防衛、人的接触、自由貿易、教育、音楽と美術、漁業、バイオテクノロジー、航空宇宙、兵器、原子力技術である。
- 相互協力の拡大を実現してゆく事は、両国民間の摩擦を管理、解決してゆく上で、建設的な影響を与える事になるであろう。

2003年12月16日
A.H.M. Shamsul Muktaadir



給費研究員： マリア カルラ アルスガライ ロドリゲス
María Carla Alzugaray Rodríguez
受 益 国： キューバ
研究実施国： カナダ
出 生 日： 1972年7月11日
出 生 地： キューバのハバナ

最終取得学位

2000年にオランダのハーグ所在の Institute of Social Studies（社会科学研究所）にて開発研究、代替開発戦略政策専攻により修士号取得。

学術業績

1998年キューバのハバナ刊、“Juan Marinello” センター発行 *Some Tendencies on the cultural consumption of the urban population in Cuba*（キューバの都市人口の文化的消費における傾向）

研究機関

カナダのオタワ所在のカールトン大学法学部

研究原題

Establishing Community-Based Mediation Services in Cuba: Possibilities and Benefits

研究期間

2002年11月から2003年7月

キューバにおける地域社会を基とする調停サービスの確立： 可能性と便益

この報告者は、キューバのハバナ市とカナダのオタワで行われた研究の成果である。

その目的は、個人間、及び、小グループの紛争を処理するためにキューバの地域社会レベルに調停サービスを導入する最も実現可能性の高い制度的枠組を探求する事であった。

この研究の第一段階は、ハバナの都市部地域社会であるAtares（アタレス）における事例研究であった。この事例研究により、最も累度の高い同地域社会における紛争を割り出し、公式、或いは、非公式に争いを処理、又は、解決する方法を区分した。そして、紛争状況において第三者として働く地域制度を、その機能、責務、信頼性、及び、介入の成功を比較しながら割り出した。

その第二段階は、カナダのオタワに在るカールトン大学において行った紛争解決、及び、調停に関する包括的文献調査であった。

この研究の第三段階は、オタワの Bellevue Manor（ベルビュー・マノール）に在る一地域社会をベースとする組織として設立された Neighborhood Coalition for Conflict Resolution（紛争解決のための近隣連合）とハバナに在る「紛争解決のための代替方式」による Felix Varela（フェリックス・バレラ）プログラムの調査を中心とする研究であった。

上記の双方の経験からの教訓は、キューバにおける地域社会に基づく調停サービスを設立する時に考慮しなければならない組織上、及び、方法論上の諸問題を認識するのに役立った。

これらの問題は、この報告書の第五章で論じられている。その問題とは、地域社会の紛争解決に対するニーズの特定、こうしたニーズに最も適する権限、及び、サービスの決定、調停サービスの長期、及び、短期の目標の決定、組織構成の決定、そして、主要機関、及び、調停サービス提供部署からの代表者と同じく、地域社会の住民を最初から含める事である。

この研究は、地域社会の紛争が、他の近隣地域社会と同様にアタレスにも存在し、軽犯罪、そして、非行と同じく、居住環境、共同生活に関連する問題、水供給の問題が累発していることを示した。又、住民により、よく紛争の処理を頼まれる地域制度は、元来、紛争を解決する機能を果たす様には計画されていない事が分かった。

多くの場合、こうした制度では、双方を満足させる恒常的解決方法を見出すのに失敗している。こうした既存の制度では、調停に関する知識と技能に欠けるので、対立する者が相互に満足し、関係を保全できる解決方法を一緒に発見する方向へ持ってゆく事が妨げられている。

共同体に基礎を置く調停サービスをキューバに設立する事は、時宜を得ている様にみえる。既存の組織内に調停サービスを設立するのが、最も実現性の高い選択肢の様に見える。具体的には、隣接地域の包括的変革の為のワークショップが推薦されている。これは、同ワークショップが、地域住民との緊密なリンク、専門スタッフ、そして、社会変革の任務を有しているからである。

この研究報告書の最終章では、この部署内で地域社会に基づく調停サービスを実施する際に指針となる一連の提案を行っている。この章では、取り分け、地域社会の構成員と地域当局の代表が、自己の地域の紛争調停ニーズを明確にするために会合を持つ事が重要である事を指摘している。この章では、地域当局と市民団体の代表者を調停サービスの政策、及び、助言組織に含め、地方自治サービスの提供当局とのパートナーシップを確立する事も提案している。そして、認定された紛争解決訓練、及び、監督の保障の必要性を強調している。

2003年8月25日

Maria Carla Alzugaray Rodriguez



給費研究員： ヴェネラ ガリアモワ
Venera Galyamova
受益国： カザフスタン
研究実施国： 中華人民共和国
誕生日： 1976年10月26日
出生地： カザフスタンのアルマティ

最終取得学位

1998年、カザフスタンのアルマティ国立大学にて歴史家、東洋学者。

学術業績

2001年「科学学会会報」第二号66頁から80頁 中国における変革過程のコンテキストでみたイデオロギー（原文ロシア語）

2001年9月「大陸」17号21頁から33頁 <http://www.continent.kz> 国家—それは我々！（中国の官僚制度について）（原文ロシア語）

Ethnic separatism in today's Xinjiang : 'Central Asia's Affairs', N°1, 2003.
（2003年「中央アジア問題」誌第一号 今日の新疆における民族分離主義）

The current situation and perspectives of the problem of Ethnic separatism in Xinjiang : 'Kazakhstan-Spectrum', N°1, 2004.
（2004年「カザフスタンスペクトル」第一号 新疆における民族分離問題の現状と見通し）

研究機関

中華人民共和国新疆ウイグル自治区政府自治区人民政府研究室

研究原題

The characteristics of the ethnic policy of the Government of the People's Republic of China in Xinjiang-Uighur Autonomous Region in the contemporary world: dialogue and methods of population pacification

研究期間

2002年9月から11月

連絡先

almatyvenera@yandex.ru
venera@kisi.kz

現代世界における新疆ウイグル自治区における 中華人民共和国政府の民族政策の特徴： 住民和解の対話と方法

この新疆ウイグル自治区における研究は、研究プロジェクト「現代世界における新疆ウイグル自治区中華人民共和国政府の民族政策の特徴」の枠組において行われた。その目標は、実施されている少数民族のコントロール方法の調査、そして、こうした方法の伝統的根源と新たな要素の特定であった。

新疆地区の行政において、中国当局は、私が分析している特別な方法を用いざるをえなかった。

研究の過程で、私は国家としての中国が伝統的性格を有している事を確認する幾つかの特徴を発見した。これらの特徴は、以下の概念を含んでいる。それは、「復活されるべき過去の偉大さ、国家の権力」、自己権力保存のための有効な道具として当局により使われる中華人民共和国の特別な政治システム、換言すると、今だ極端に保守的、非政治的、且つ、家父長的な伝統的政治文化等である。

しかし、中国国家は変革を経験しており、その民族政策も変革されつつある。

まだ表層的で試験的ではあるが、現在の中国政府の民族政策に観察できる諸変革は非常に重大である。

初見では、新疆に対して計画された改革は、圧倒的に経済的目標を追求しているようにみえる（この改革計画は、新疆地区を「育成」し、中国の他の地域と同化しようとするものである）。しかし、私見では、文化面と国家と社会間の関係における一大転換が、より早く到来する事が予想される。今日でさえ、我々は新たな現象を目撃している。即ち、過去に新疆少数民族各構成員の個人個人の意識に完全な影響を与え、その個人的外観を形成

した民族文化の地位が今では変わってしまったのである。

民族文化は、今では傍らに押しやられ、大量の大衆文化が急速に形成され、こうした変化が個人の国家の選択に持ち込まれたのである。私は、北京により開始された新疆地区を急速な経済的変革へと導く現在の「突発的」開発には、別の重大な目標があると考えている。それは、既存の伝統的政治文化を現行の状態に保存し、新疆社会を一方的に変革する事である。

概して、新疆における新たな政治的進路の出現は、中国国家の長期的進化の結果としてみなければならない。そして、民族政策におけるこうした総ての過程は、当局によってコントロールされており、政府自身の権限委譲のために政府によって選ばれたものである。
(…)

この研究の過程で、新疆地域における政治的雰囲気の一般的な特有の諸特徴も調査した。

この雰囲気は、新疆における特有の政治的過程と政治的文化によって創り出されている。それは、まさにこの雰囲気と現行の民族政策の実行の必要性を決定した中国政府の戦略的計画と目標だったのである。

2002年11月9日
Venera Galyamova



給費研究員： レスリー アーサー ウィルトン シャイロン
Leslie Arthur Wilmot Shyllon
受益国： シエラ・レオネ
研究実施国： リベリア

誕生日： 1969年7月27日
出生地： シエラ・レオネのフリータウン

最終取得学位

1994年、英国スコットランドのエジンバラ大学神学部の Centre for the Study of Christianity in the Non-Western World（非西洋世界キリスト教研究所）に学び、神学修士号を取得

学術業績

2000年8月にナイジェリアのオヤ州 Ogbomoso のバプテスト神学校にて開催された the Biennial Conference of the West African Association of Theological Institutions（西アフリカ神学院隔年会議）用論文 *Preparing Youth for Responsible Adulthood: The Challenges of the Church*（青年を責任ある成人になる様に備える：教会の挑戦）。この論文は2002年8月出版された本 *Religion, Morality and leadership in West*（西アフリカ社会における宗教、倫理性、及び、指導性）に収録される。

2001年、南アフリカのケープ・タウンで開催された諮問会議、All Africa Conference of Churches（全アフリカ教会協議会）用論文 *The Church in Peace Initiatives; A Sierra Leone Perspective*（平和先導における教会：シエラ・レオネの見通し）

研究機関

リベリアのモンロヴィア所在の New African Research and Development Agency（新アフリカ研究開発局）(NARDA)

研究原題

Religious Collaboration in Conflict Resolution: The Sierra Leone Experience

研究期間

2003年1月から4月

連絡先

shyloba@yahoo.co.uk

紛争解決における宗教的協調：シエラ・レオネの経験

この論文は、サハラ以南のアフリカにおける紛争の全般的探査、そして、シエラ・レオネの紛争をアフリカにおける紛争と紛争解決に関する既存の考え方の枠内に置いてみるという大胆な作業を試みている。

主考察

- 諸市民団体の中でも一重要団体として Inter-Religious Council of Sierra Leone (シエラレオネ宗教間評議会) は、ロメ和平交渉前後の両時期に紛争当事者間の対話促進と信頼構築におき、特筆に値する決意と多大な主導性を示した。同評議会は、市民社会、紛争当事者、及び、国際社会の敬意も得た。
- この地位は一連の活動により得られたもので、その活動には危機に瀕している全主要当事者による諸協議、プレス・リリース、経験の共有、祈り、及び、悔い改め、赦し、及び、和解の神のメッセージを伝える事が含まれていた。
- 他の顕著で賞賛に値するシエラレオネ宗教間評議会の平和実現に向けた活動は、ロメ和平交渉に先立つ、モンロヴィアへの訪問であった。この活動は、チャールズ・テラーを反乱側に武器を降すように説得できる一重要人物として認識し、説得の役に任じるのを助けた。
- 宗教的指導者達は慈悲により裁判は寛大に行う必要があるとの現実的な訴えを行ったが、裁判なしの平和は逆に無意味である。ロメにおける和平合意は、重大、且つ、広範な人権侵害を犯した者達に恩赦を与えたが、これは恩赦が赦罪である事を意味しない。社会における傷は、平和が協定条項や宣言の中にだけでなく、個々人の心と精神の中で決意される時、そして、真実を直視する場合にのみ癒す事ができるのである。
- 聴聞権、これは自然的正義の基本原則を強く反映するもので、これは、もし「全体論的」聴聞が真実及び和解委員会の範囲内で確立されるならば、安定した紛争後社会のための有意義な怨嗟漸減策を提供しえる。
- 加害者側と被害者側の双方に、自己の真実を語る機会が与えられなければならない。

実際の勧告

- シエラ・レオネの状況から判断し、類似の歴史社会的性向を共有する社会においては、紛争解決のための有用なメカニズムとして宗教的協力を勧告しえる。
- マノ川流域内に宗教間作業グループを創設することにより、同地域内における潜在的、又、現存する紛争状態の双方に取り組み、解決するための有効なチャンネルを得られる可能性がある。こうした状況が人的ネットワークの形成、有意義な対話、及び、唱導による宗教的協力を適しており、協力が可能である場合には、こうした協力は継続的なものである必要がある。こうした宗教的協力は、紛争が始まった時の対応であるよりも、紛争防止に焦点を当てた、抑制的なものである必要がある。
- シエラ・レオネのコンテキストにおける寛容と協力という宗教の本質は、原理主義と宗教的偏狭性に対する一阻止要因として働いている。この価値は、宗教的紛争の災厄、及び、行き過ぎから社会を保護する教訓として、同地域の他の地区に輸出する事ができる。
- どの社会においても、豊かな社会であれ、発展途上国であれ、宗教は人々の良心として仕える必要がある。従って、宗教的指導者は、必ず、何時でも、人々の、そして、声なき声の良心である必要がある。

2003年5月3日
Leslie A. W. Shyllon

© UNESCO 2005

発行： 2005年

発行者： 国際連合教育科学文化機関

(ユ ネ ス コ)

The United Nations Educational, Scientific
and Cultural Organization

Sector for External Relations
and Cooperation (ERC)

7, place de Fontenoy
75352 Paris 07 SP.

印刷所： STIPA (フランス)

原本

“UNESCO/Keizo Obuchi Research Fellowships
Programme in 2002: Results Achieved”

© UNESCO 2005

原本作成者

Ali Zaid

Chief a.i., UNESCO Fellowships Section

Leila ZAS FRIZ

UNESCO Fellowships Section

翻訳・作成

玉越 洋治

日本信託基金
プロジェクト

UNESCO
Sector for External Relations
and Cooperation (ERC)
Fellowships Section
7, place de Fontenoy
75352 Paris 07 SP

Tel.: 33 (1) 45 68 1313
E-mail: fellowships@unesco.org
Website: www.unesco.org
